

平成 22 年度  
当別町地域公共交通活性化・再生総合事業  
実績報告書

平成 23 年 4 月

当別町地域公共交通活性化協議会

# 《 目 次 》

## 第1部 地域公共交通活性化協議会の開催

1. 協議会設置の背景と目的	1
2. 会議の開催	4

## 第2部 コミュニティバス実証運行事業

1. 当別ふれあいバス実証運行事業の概要	5
2. 運行データの分析	7
3. 運行コストと運行収入	20
4. S u i S u iふれバの実績	23
5. 夏休み冬休み子ども定期券の販売	24

## 第3部 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

1. 小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施	26
2. 大学生向けモビリティ・マネジメントの実施	29
3. 住民向けモビリティ・マネジメントの実施	30
4. ニュースレターの発行・バスマップの作成	31
5. 利用促進ツアー・車内展示会の実施	32
6. バス祭りの開催	34
7. 使用済みてんぷら油回収とバイオディーゼル燃料の活用	40

## 第4部 調査・研究

1. OD調査の実施	42
2. 本格運行向体制調査検討の実施	43

## 第5部 まとめ

1. 当別町コミュニティバス実証運行事業のまとめ	44
2. 活性化事業に関するまとめ	46
3. 今後の課題	47

## 別冊 参考資料

平成22年度 地域公共交通活性化再生総合事業計画	1
平成22年度 当別町コミュニティバス実証運行事業計画	8
ニューズレター（第1号～第6号）	35
バスマップ	47
小中学生向けモビリティ・マネジメント使用スライド	49
当別小学校授業後アンケート調査の結果	55
西当別小学校授業後アンケート調査の結果	58
住民向けMMのアンケート調査の結果	61
バス祭りアンケート調査の結果	66
当別ふれあいバスOD調査の結果	68

# 第1部 地域公共交通活性化協議会の開催

## 1. 協議会設置の背景と目的

### (1) 当別町コミュニティバス実証運行

当別町では、平成17年度に『当別町バス交通体系調査事業』を実施し、委員会を設置して町内及び札幌市あいの里地区までを多目的に運行されている複数のバスの一元化について調査・検討を行い、その結果を基に、平成18年度に『当別町コミュニティバス実証運行事業』を行った。

バスの一元化にあたり、事業の実施は当別町が行っていたが、負担金に関する調整、路線・ダイヤの検討、その他バス運行に関する協議を行うため、負担金を拠出する事業者（以下参加事業者）と、バスを運行する事業者（以下運行事業者）で構成する『当別町コミバス事業者連絡会議』を設置した。事業の実施主体が地域公共交通活性化協議会へ移行した後も会議を継続し、負担金や路線の検討などを行った。

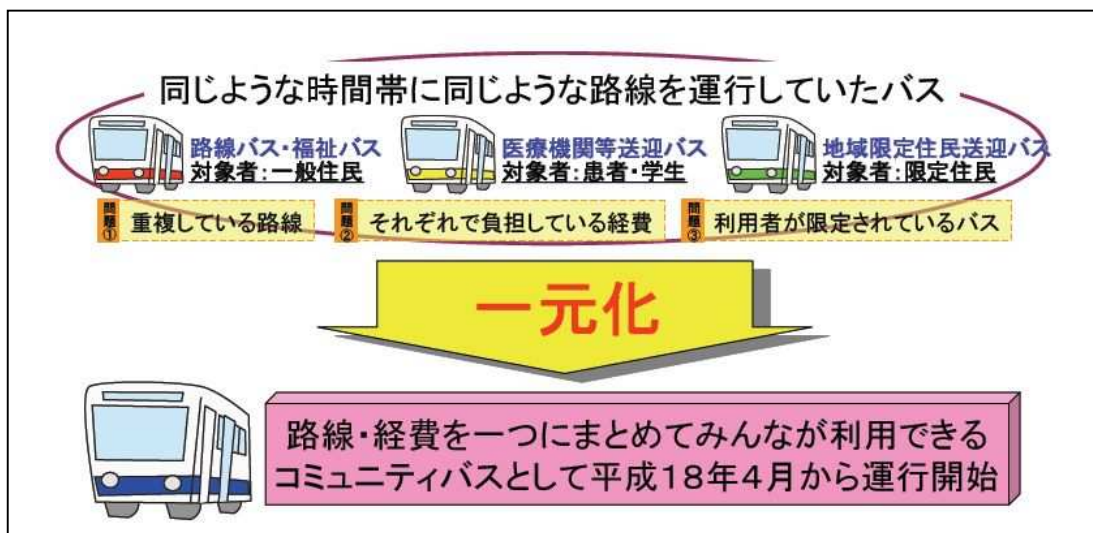


図 1-1-1 当別町コミュニティバス一元化イメージ

### (2) 当別町地域公共交通会議の設置

平成18年の道路運送法の改正により、一路線200円の定額料金や柔軟な路線設定を継続するために、地域公共交通会議での協議が必要となることから、平成19年8月に『当別町地域公共交通会議』を設置し、料金設定やダイヤ改正の協議を行った。

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 企画部長	増輪 肇
	当別町 福祉部長	武井 久幸
	当別町教育委員会事務局 教育部長	高橋 通
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	今 武
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	平 修
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 専務理事	岩崎 友雄
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部長	小野 正道
	北洋交易株式会社 グループリーダー	中村 慧一
	医療法人社団とうべつ整形外科 看護師長	北村 佳代子
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース 代表取締役常務	下段 世志雄
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 代表	鈴木 智久
	当別町PTA連合会 会長	安藤 頼孝
	当別町高齢者クラブ連合会 会長	高木 馥美
	当別町女性団体連絡協議会 会長	東谷 たまえ
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	渡邊 ヨキ子
	当別町商工会 事務局長	竹原 陽一
	当別町社会福祉協議会 主幹	藤原 徹

表 1-1-1 当別町地域公共交通会議名簿(平成 19 年 12 月時点)

### (3) 当別町地域公共交通活性化協議会の設置

平成 19 年 10 月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、当別町地域公共交通総合連携計画を策定し実施するため、『当別町地域公共交通活性化協議会』を設置した。当別町コミュニティバス実証運行事業も連携計画に含め、実証運行を行った。また、前述の当別町地域公共交通会議を包含した会議とし、連携計画に基づく事業の実施のほか、路線・ダイヤの協議も行った。

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 福祉部長	小山 久夫
	当別町教育委員会事務局 教育部長	高橋 通
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	新保 信一
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	田辺 きよみ
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 専務理事	岩崎 友雄
関係する道路管理者	札幌開発建設部札幌道路事務所 第3工務課長	高橋 恒男
	空知総合振興局 札幌建設管理部 当別出張所長	小澤 俊郎
	当別町 建設水道部長	滝本 隆志
関係する鉄道事業者	J R 石狩当別駅長	羽賀 雅史
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	鈴木 邦仁
	スウェーデンハウス株式会社 管理グループ次長	丸山 祐二
一般乗合旅客自動車運送事業者の代表	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース	工藤 亘平
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 代表	五賀 利雄
	当別町PTA連合会 会長	高橋 昭大
	当別町高齢者クラブ連合会 会長	菊池 久
	当別町女性団体連絡協議会 理事	宮尾 道子
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	五十嵐 廣子
	当別町商工会 事務局長	土肥 繁義
	当別町社会福祉協議会 主幹	只野 輝樹

表 1-1-2 当別町地域公共交通活性化協議会委員名簿(平成 23 年 2 月 1 日現在)

北洋交易株式会社は平成 21 年 1 月にスウェーデンハウス株式会社に吸収合併され、名称変更。

とうべつ整形外科は平成 22 年 3 月 31 日をもって脱会。

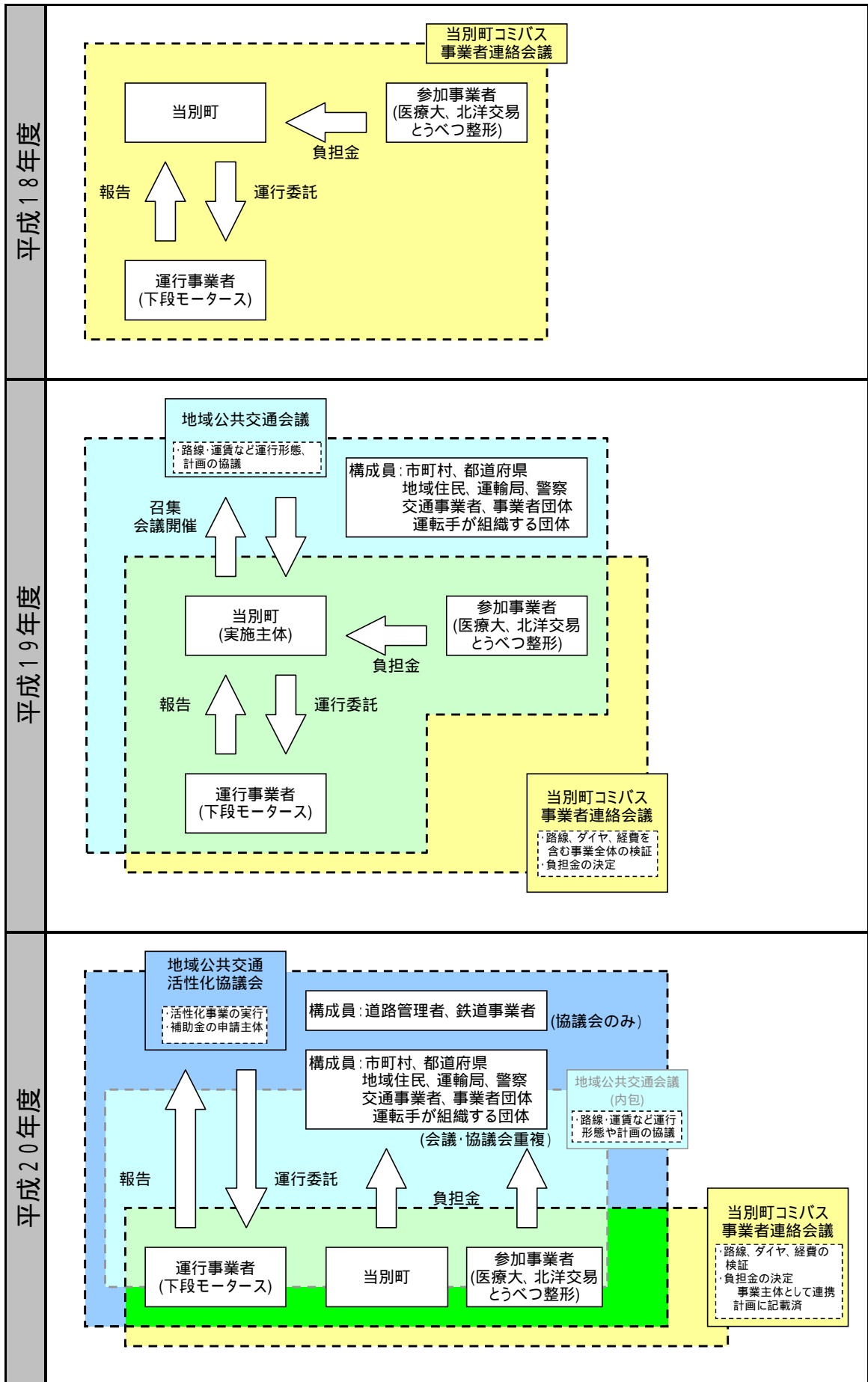


図 1-1-2 事業主体の変遷

## 2. 会議の開催

### (1) 開催

平成22年度は3回の協議会を開催した。協議会では、地域公共交通総合連携計画に基づき策定された平成22年度計画事業の議論や進捗報告と、平成23年度事業計画及び予算の策定を行った。

また、地域公共交通会議の性質も併せ持つことから、平成23年4月1日本格運行に向けた平成22年12月1日付けダイヤ改正についての協議も、本協議会で行った。

回	開催日時	主な協議内容
第1回	平成22年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度活性化・再生総合事業実績報告について</li> <li>平成21年度協議会決算報告及び監査報告について</li> <li>平成22年事業計画及び予算の変更について</li> <li>ふれあいバス利用促進バスツアーの抽選について</li> <li>当別ふれあいバス絵画・ポスターコンクールの受賞作品の選考について</li> <li>本格運行向け協議スケジュールについて</li> </ul>
第2回	平成22年9月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス待合所の寄贈について</li> <li>利用促進ファイターズ観戦バスツアーについて</li> <li>夏休み子ども定期券の取組結果について</li> <li>オフセット・クレジット制度に基づくANAとの協定締結について</li> <li>JCOMMプロジェクト賞の受賞について</li> <li>バスまつり2010の進捗状況について</li> <li>当別ふれあいバス 平成22年8月までの実績について</li> <li>ニューズレターの発行について</li> <li>本格運行の方向性について 平成22年12月1日付け路線変更及びダイヤ改正について 本格運行時の運行体制及び事業者負担金の取り扱いについて バスマップにおける広告掲載について</li> </ul>
第3回	平成23年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスまつり2010実施結果について</li> <li>地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業）に係る二次評価結果について</li> <li>当別ふれあいバス 平成23年2月までの実績について</li> <li>平成22年度予算執行状況について</li> <li>ニューズレターの発行について</li> <li>平成23年度事業計画・予算案について</li> </ul>

表 1-2-1 会議開催内容

## 第2部 コミュニティバス実証運行事業

### 1. 当別ふれあいバス実証運行事業の概要

#### (1) 運行の概要

これまでの実証運行を基に基本路線の確定を進めるため、平成21年4月に改正したダイヤの利用者データ等を基に路線及びダイヤの改正を行った。

平成22年4月改正においては、JR学園都市線との接続の確保と、買い物利用者の利便性を向上させるため、あいの里について、JRあいの里教育大駅を経由する路線に変更するとともに、ロイズあいの里公園店付近・あいの里公園病院集合地域・JRあいの里教育大駅にバス停留所を設置する。

また、5年間の実証運行実績を基に平成23年4月の本格運行に向けた、ダイヤ改正を平成22年12月に行い、自主自立した運行を行っていくため、最低限の便数を確保しながら、収支バランスがとれる運行体制とした。

	一般	中学生・高校生	小学生・障がい者・介護人
運賃（一般路線）	200円		100円
（SuiSuiふれバ）	1,000円（応援券利用者は500円） 平成22年11月30日廃止		
回数券	2,000円（12枚綴り）		2,000円（24枚綴り）
応援券（1ヶ月）	4,000円	2,000円	
（3ヶ月）	10,000円	5,000円	
（6ヶ月）	16,000円	8,000円	
夏休み冬休み子ども定期券	小学生500円、中学生1,000円		

表2-1-1 利用料金一覧

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備考
			往	復	
市街地循環線 （昇順コース）	JR石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.0 km	7便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 （降順コース）	JR石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.0 km	6便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	JR石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	6回	6回	
あいの里線	JR石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	17.7 km	8回	8回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	JR石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	12回	14回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	JR石狩当別駅南口～みどり野会館	9.0 km	2回	2回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	JR石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	6回	6回	
SuiSuiふれバ	JRあいの里公園駅～区域内運行	区域内 運行	0回	1回	金曜・土曜 のみ運行

表2-1-2 運行路線一覧（平成22年4月1日）



系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備 考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.0 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
市街地循環線 (降順コース)	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.0 km	6 便		土曜・日曜・ 祝日 運休
西当別線	J R 石狩当別駅南口～ロイズふと美工場	12.0 km	6 回	6 回	
あいの里線	J R 石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	18.5 km	8 回	8 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	11 回	13 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
みどり野線	J R 石狩当別駅南口～みどり野会館	9.0 km	2 回	2 回	土曜・日曜・ 祝日 運休
青山線	J R 石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	6 回	6 回	
SuiSui ふれバ	J R あいの里公園駅～区域内運行 平成 22 年 11 月 30 日廃止	区域内 運行	0 回	1 回	金曜・土曜 のみ運行

表 2-1-3 運行路線一覧 (平成 22 年 12 月 1 日改正)

時刻表・路線図は参考資料「平成 22 年度当別町コミュニティバス実証運行事業計画」を参照。

## 2. 運行データの分析

### (1) 全体利用者数の推移

総利用者数は139,979人、4月～9月の利用者は増加、下期は減少となっている。  
12月ダイヤ改正と1月大雪の影響もあり、12月以降は過去最低の利用となっている。  
北海道医療大学が長期休暇に入る8月及び3月は利用者が減少している。

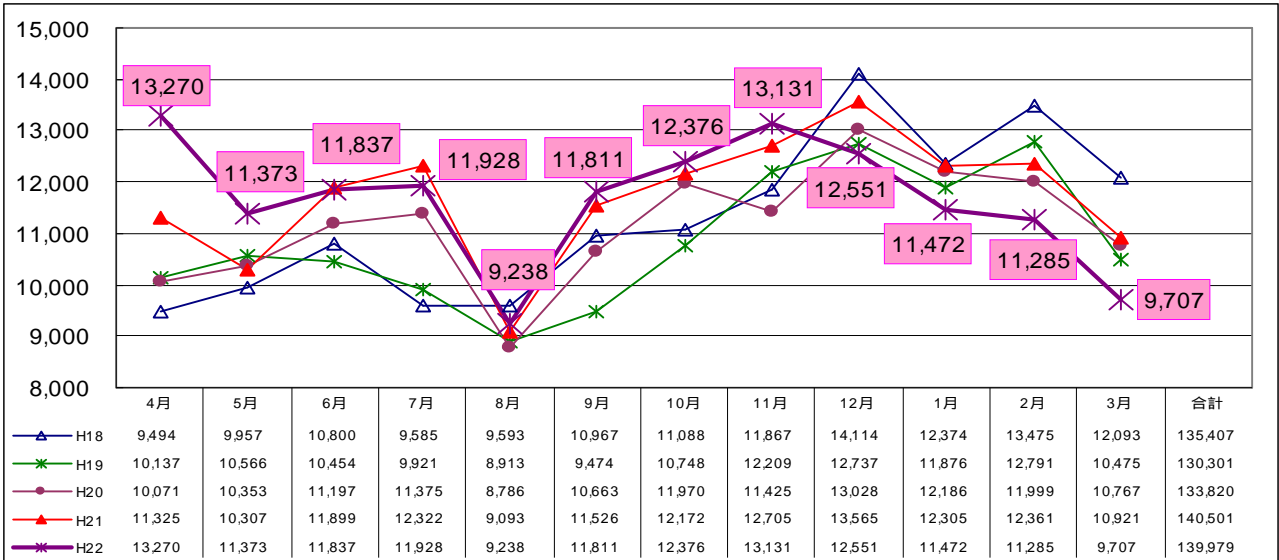


図 2-2-1 月別利用者推移

	平日								運行日数
	循環(昇順)	循環(降順)	西当別線	あいの里線	金沢線	みどり野線	雪山線	小計	
4月	311人	250人	1,887人	3,518人	5,301人	171人	1,014人	12,452人	21日
5月	253人	194人	1,754人	2,764人	4,211人	161人	802人	10,139人	18日
6月	240人	230人	1,966人	3,280人	4,372人	152人	918人	11,158人	22日
7月	280人	238人	1,705人	3,222人	4,519人	160人	871人	10,995人	21日
8月	222人	240人	1,534人	3,346人	2,176人	177人	856人	8,551人	22日
9月	201人	209人	1,862人	3,135人	4,458人	141人	880人	10,886人	20日
10月	250人	207人	1,953人	3,402人	4,512人	135人	920人	11,379人	21日
11月	260人	281人	2,081人	3,255人	5,280人	146人	957人	12,260人	20日
計	2,017人	1,849人	14,742人	25,922人	34,829人	1,243人	7,218人	87,820人	165日
平均	12.2人/日	11.2人/日	89.3人/日	157.1人/日	211.1人/日	7.5人/日	43.7人/日	532.2人/日	
本数	7便/日	6便/日	12回/日	16回/日	26回/日	4回/日	12回/日	83回/日	
平均	1.7人/便	1.9人/便	7.4人/便	9.8人/便	8.1人/便	1.9人/便	3.6人/便	6.4人/便	
12月	276人	219人	2,092人	3,428人	4,477人	183人	1,072人	11,747人	21日
1月	193人	193人	1,979人	3,133人	4,178人	155人	826人	10,657人	20日
2月	250人	239人	1,962人	2,979人	3,917人	157人	977人	10,481人	19日
3月	281人	272人	1,781人	3,445人	1,980人	226人	974人	8,959人	22日
計	1,000人	923人	7,814人	12,985人	14,552人	721人	3,849人	41,844人	82日
平均	12.2人/日	11.3人/日	95.3人/日	158.4人/日	177.5人/日	8.8人/日	46.9人/日	510.3人/日	
本数	6便/日	6便/日	12回/日	16回/日	24回/日	4回/日	12回/日	80回/日	
平均	2.0人/便	1.9人/便	7.9人/便	9.9人/便	7.4人/便	2.2人/便	3.9人/便	6.4人/便	
合計	3,017人	2,772人	22,556人	38,907人	49,381人	1,964人	11,067人	129,664人	247日
平均	12.2人/日	11.2人/日	91.3人/日	157.5人/日	199.9人/日	8.0人/日	44.8人/日	525.0人/日	
平均	1.8人/便	1.9人/便	6.9人/便	9.8人/便	7.9人/便	2.0人/便	3.7人/便	6.3人/便	

	土曜・日曜・祝日			SuiSuiふれ八		合計	
	西当別線	雪山線	小計	乗降車数	運行日数	乗降者数	運行日数
4月	612人	175人	787人	31人	9日	13,270人	30日
5月	986人	224人	1,210人	24人	7日	11,373人	31日
6月	541人	113人	654人	25人	6日	11,837人	30日
7月	767人	136人	903人	30人	8日	11,928人	31日
8月	535人	139人	674人	13人	4日	9,238人	31日
9月	707人	191人	898人	27人	7日	11,811人	30日
10月	796人	167人	963人	34人	10日	12,376人	31日
11月	662人	184人	846人	25人	7日	13,131人	30日
計	5,606人	1,329人	6,935人	209人	58日	94,964人	244日
平均	71.0人/日	16.8人/日	87.8人/日	3.6人/日		389.2人/日	
本数	24回/日	7回/日	31回/日	1回/日			
平均	3.0人/便	2.4人/便	2.8人/便	3.6人/便			
12月	661人	143人	804人		10日	12,551人	31日
1月	678人	137人	815人		10日	11,472人	30日
2月	645人	159人	804人		9日	11,285人	28日
3月	604人	144人	748人		9日	9,707人	31日
計	2,588人	583人	3,171人		38日	45,015人	120日
平均	68.1人/日	15.3人/日	83.4人/日			375.1人/日	
本数	22回/日	6回/日	28回/日				
平均	3.1人/便	2.6人/便	3.0人/便				
合計	8,194人	1,912人	10,106人	117日	209人	139,979人	364日/日
平均	70.0人/日	16.3人/日	86.4人/日		3.6人/日	384.6人/日	
平均	3.0人/便	2.5人/便	2.9人/便		3.6人/便	5.8人/便	

表 2-2-1 月別利用者数一覧

(2) 市街地循環線の推移

とうべつ整形外科の無料送迎の再開の影響もあり過去最低の利用者となった。  
 とうべつ整形外科の通院時間にちょうど良い3便の利用が昨年と比較して激減している。  
 例年冬季は夏季に比べ利用者が延びていたが、今年度は逆に利用者が減少した。  
 12月ダイヤ改正と1月の大雪でダイヤが大幅に乱れたこともあり、利用者が減少した  
 と考えられる。

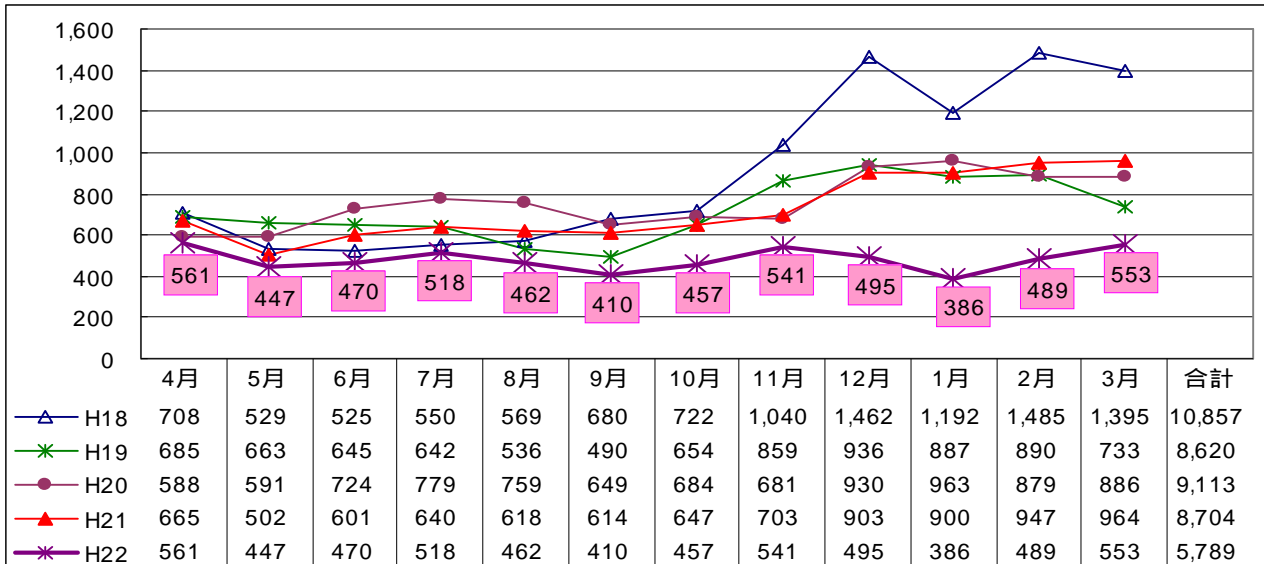
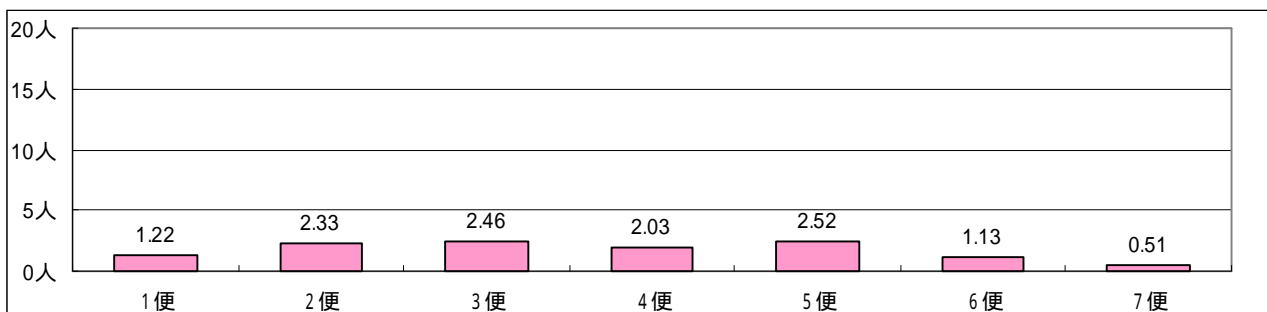
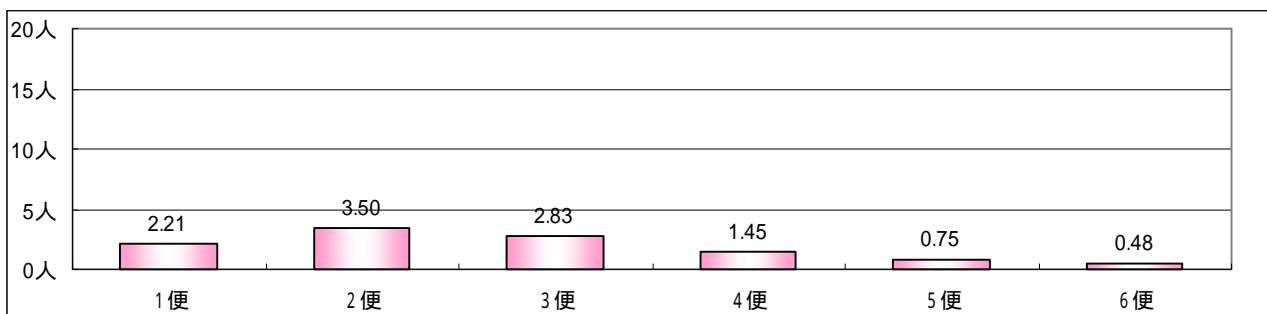


図 2-2-2 月別利用者推移

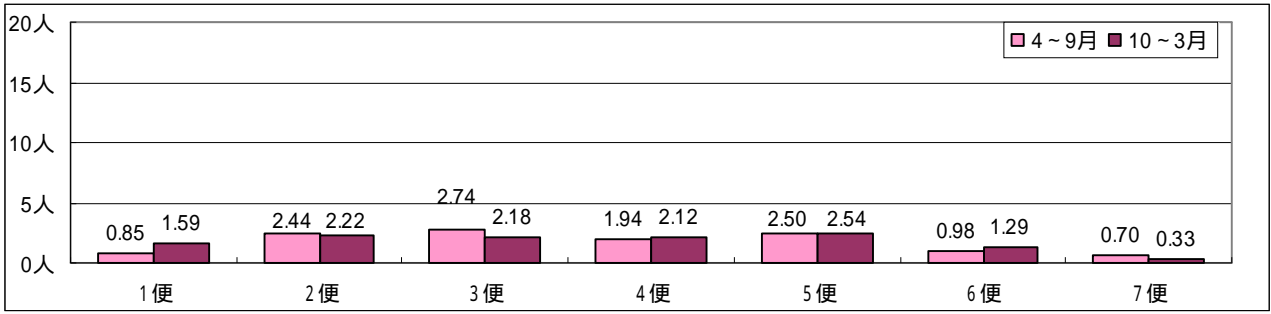


昇順

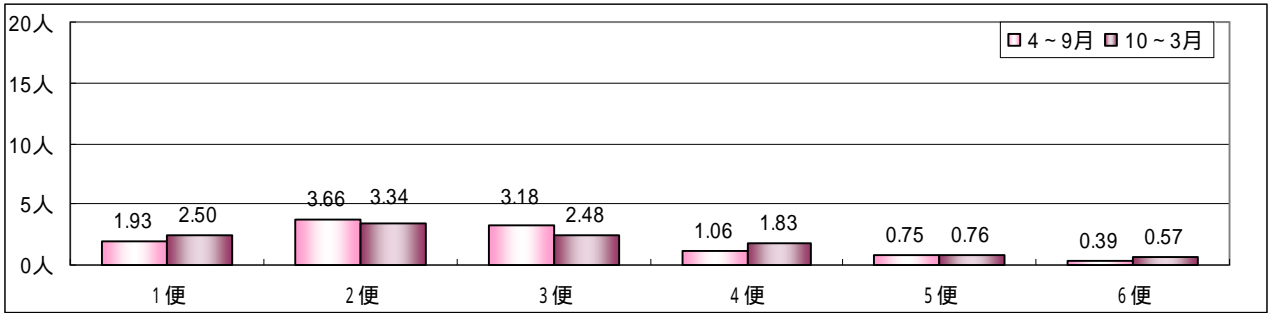


降順

図 2-2-3 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数

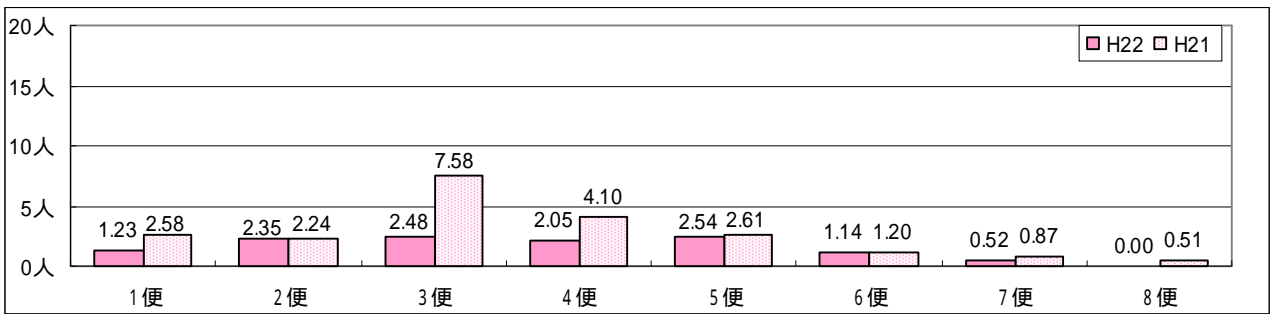


昇順

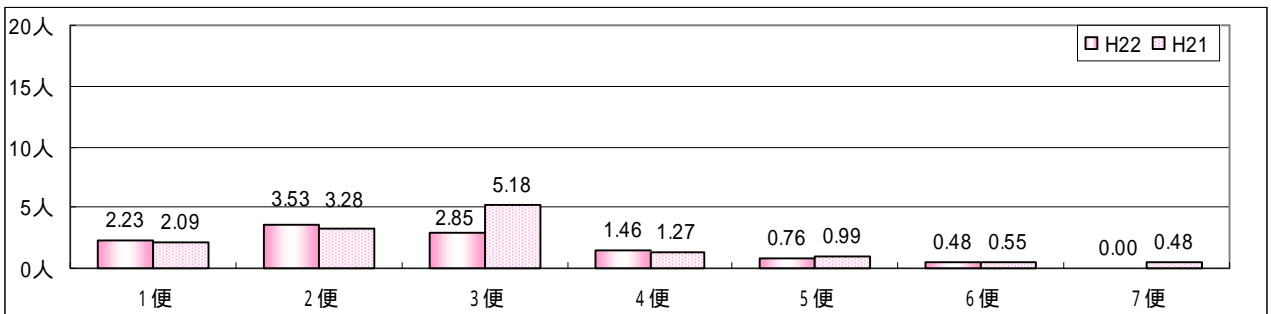


降順

図 2-2-4 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）



昇順



降順

図 2-2-5 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数（H22 と H21 の比較）

(3) 金沢線の推移

全体的に平年を上回った月が多く、過去最高の利用者数となった。

学生の利用が多いため長期休暇に入る8月、3月の利用者が少ない。

北海道医療大学行の第1便は大学の講義1講目の時間に合わせているため、昨年と同様に利用者数はどの便よりも多い。

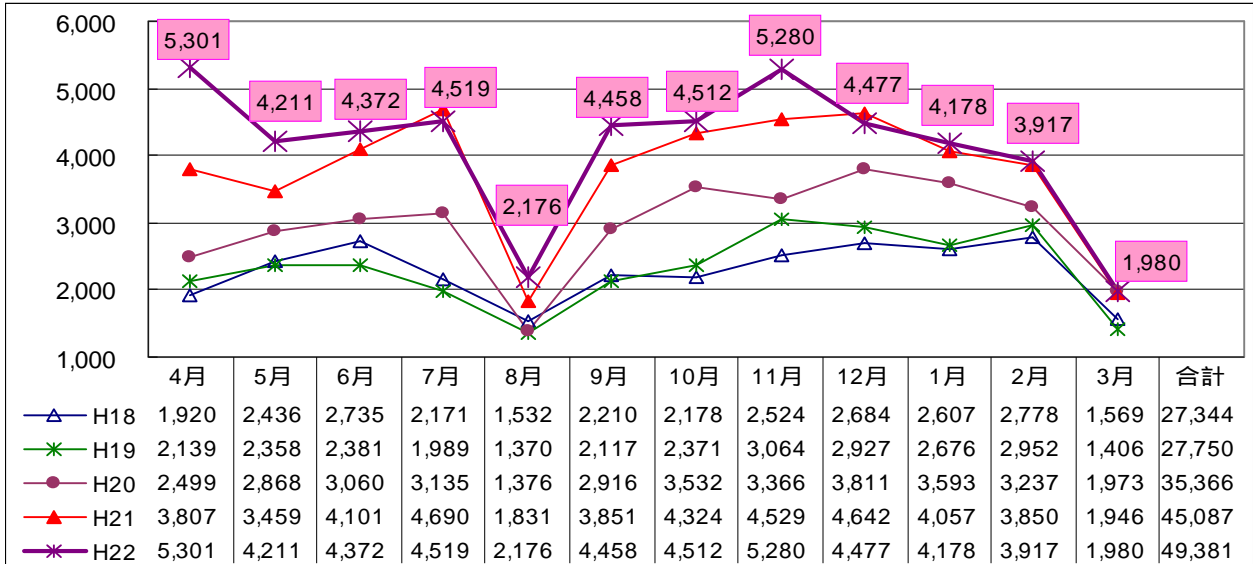
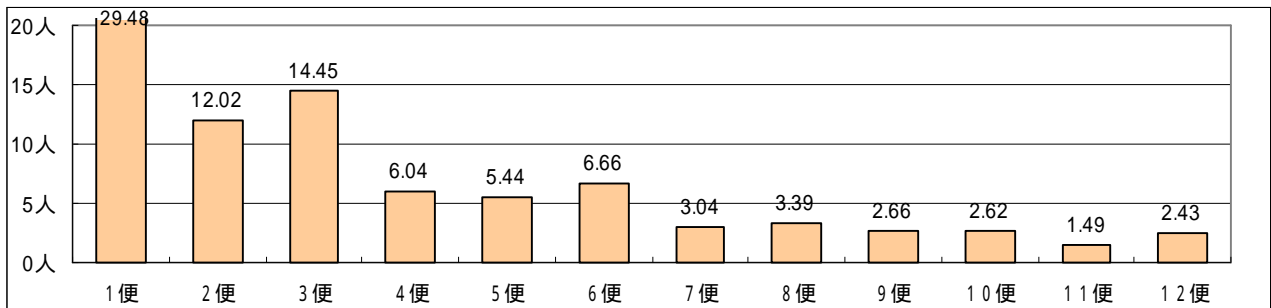
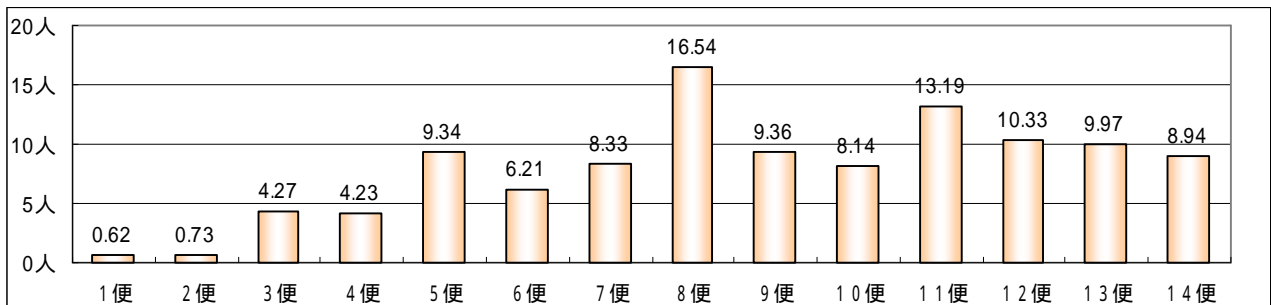


図 2-2-6 月別利用者推移

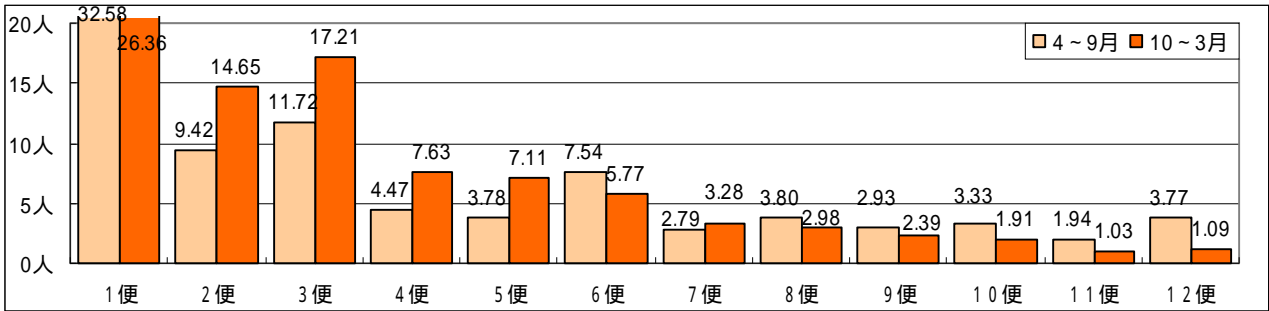


北海道医療大学行

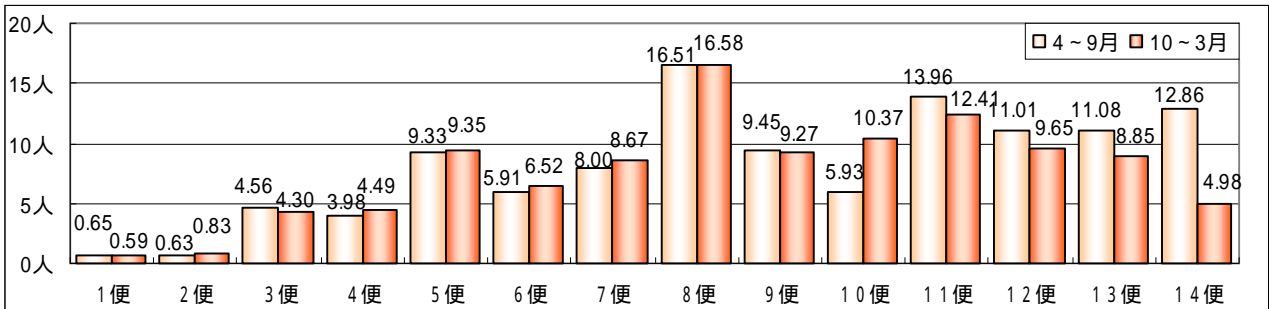


J R 当別駅南口行

図 2-2-7 1 便当たり平均利用者数

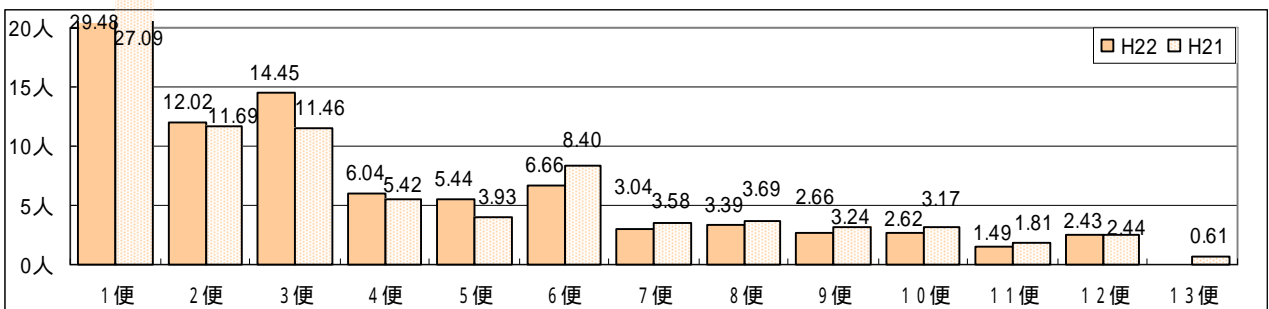


北海道医療大学行

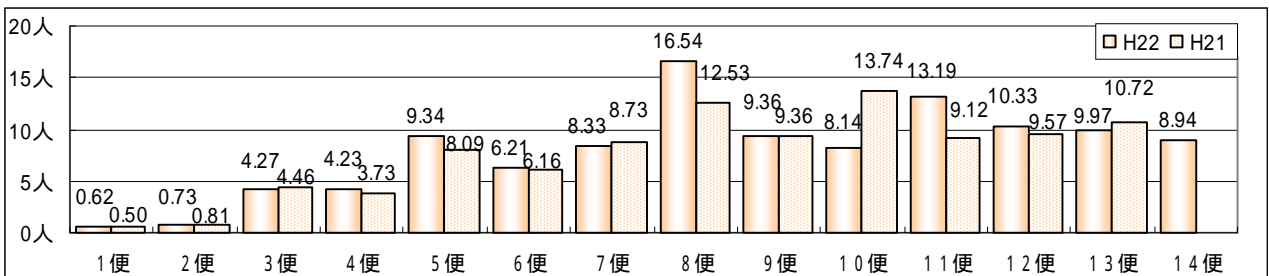


J R当別駅南口行

図 2-2-8 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）



北海道医療大学行



J R当別駅南口行

図 2-2-9 1 便当たり平均利用者数（H22 と H21 の比較）

(4) 西当別・あいの里線の推移

全体的には平年並みの利用者を維持できている。夏季の利用は平年並みだが、冬季の利用者の落ち込みが著しい。土日祝日の利用者は大きく変わらないが、平日利用者の減少が顕著である。

平日の太美駅・ロイズ・あいの里キャンパス行のうち、第1便の利用が多いのは、通勤通学者が太美駅まで利用するためと考えられる。

同第3便が多いのは、ロイズふとみ工場勤務者が通勤手段として利用するためと考えられる。

同第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のためと考えられる。

夏季と冬季の利用者を比較すると、平日休日共に第1便と第2便の利用者が増加しており、冬季になり徒歩や自転車からバスへの乗り換え利用が増えている。

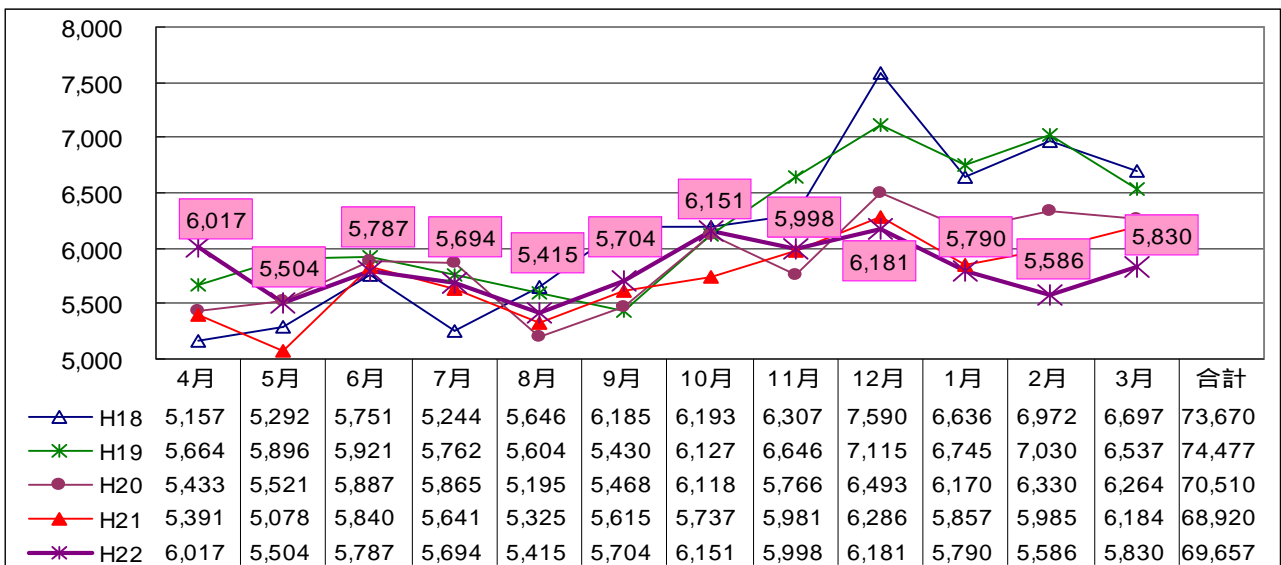
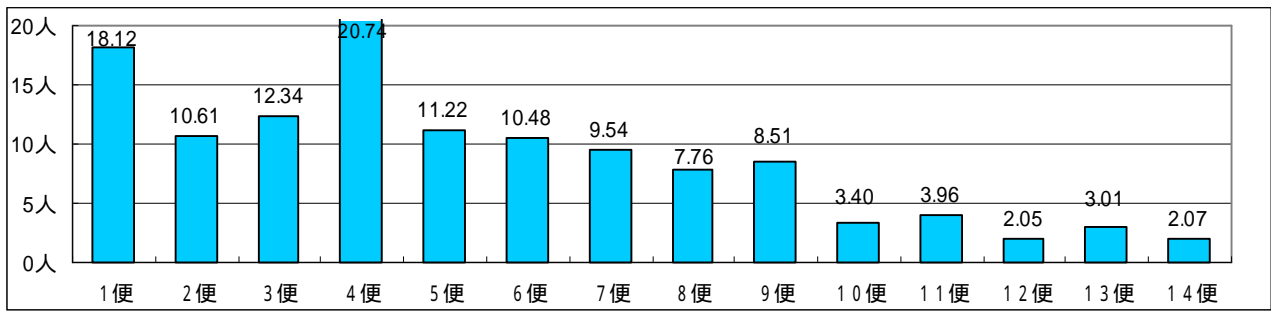
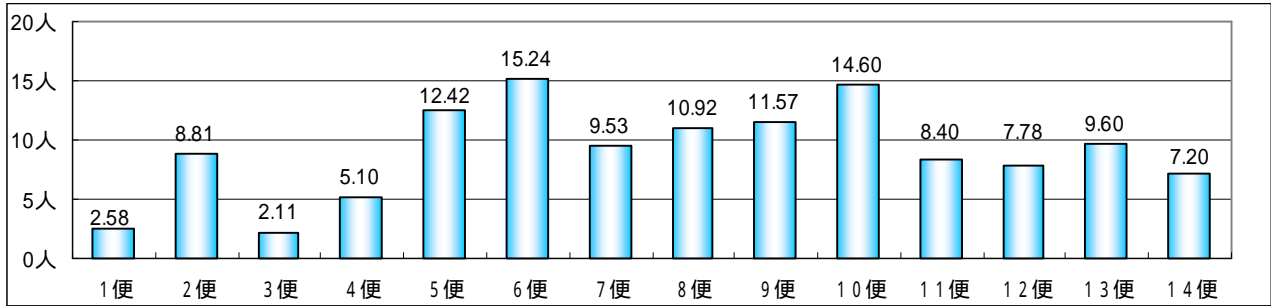


図 2-2-10 月別利用者推移

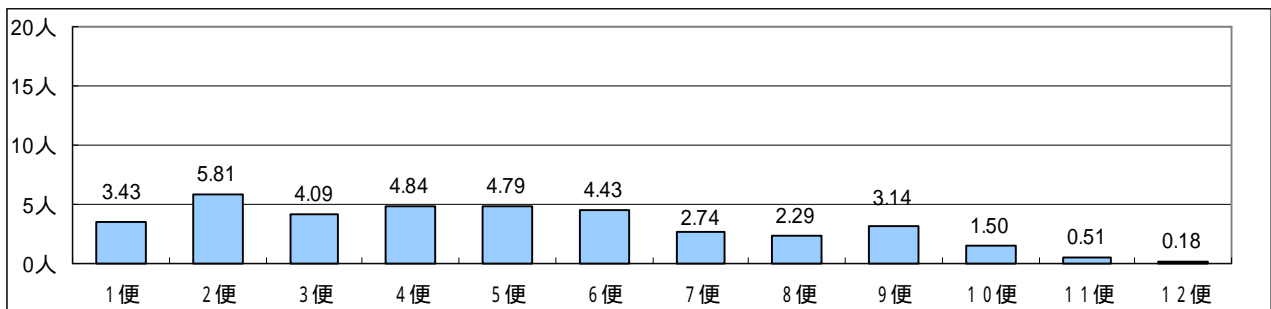


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

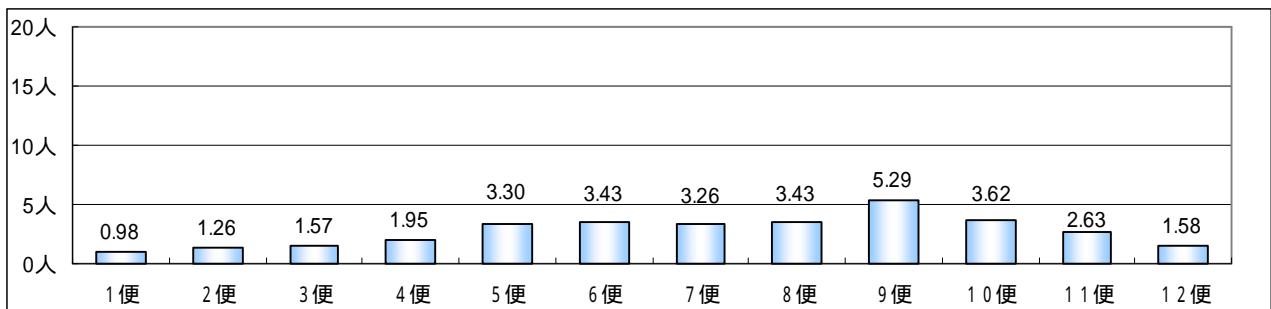


J R当別駅南口行

図 2-2-11 平日 1 便当たり平均利用者数



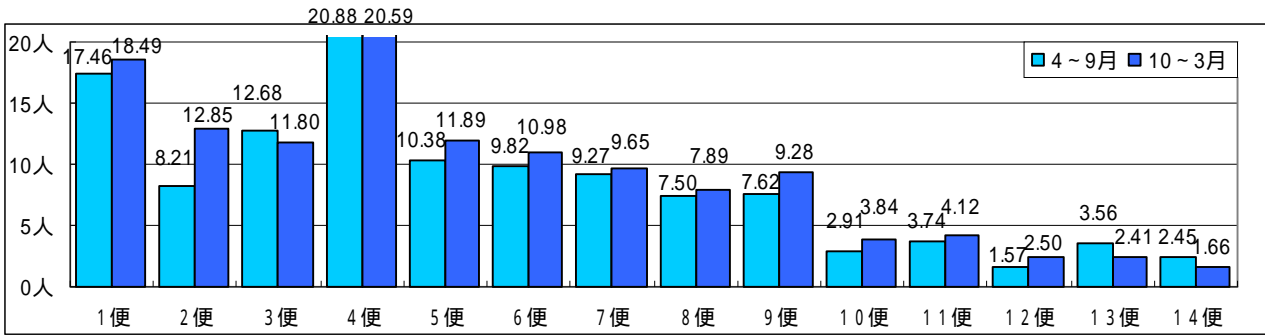
J R太美駅、ロイズふとみ工場行



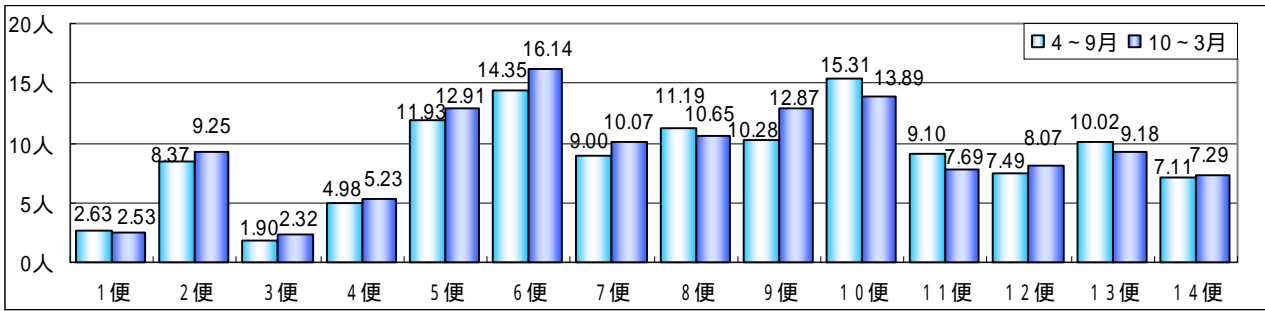
J R当別駅南口行

図 2-2-12 土日祝日 1 便当たり平均利用者数



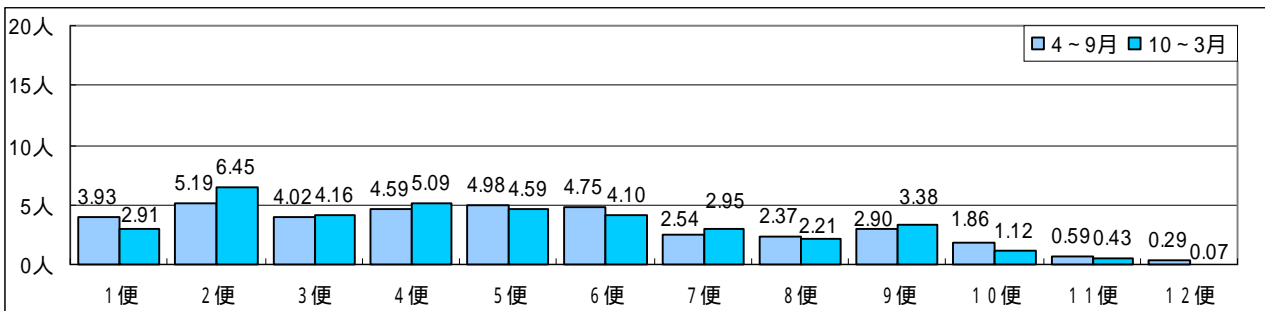


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

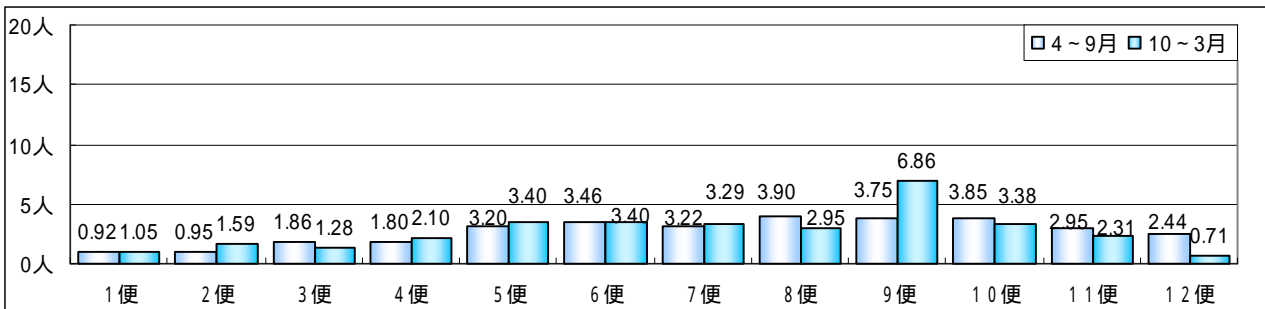


J R当別駅南口行

図 2-2-13 平日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

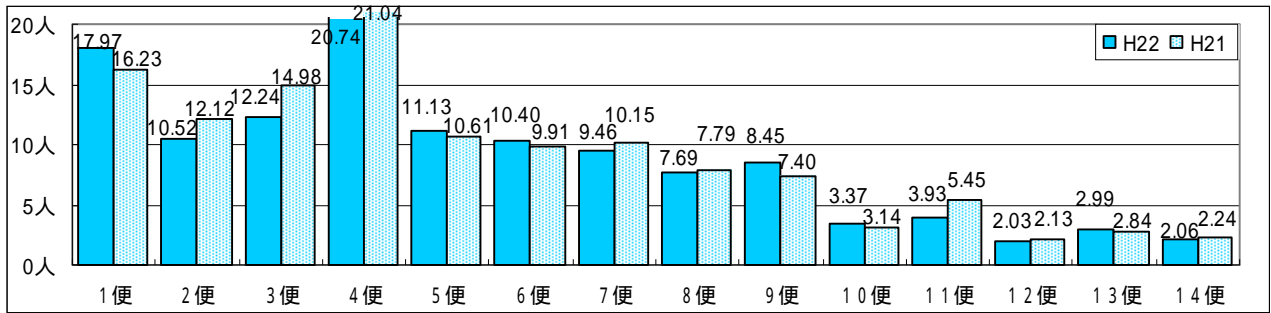


J R太美駅、ロイズふとみ工場行

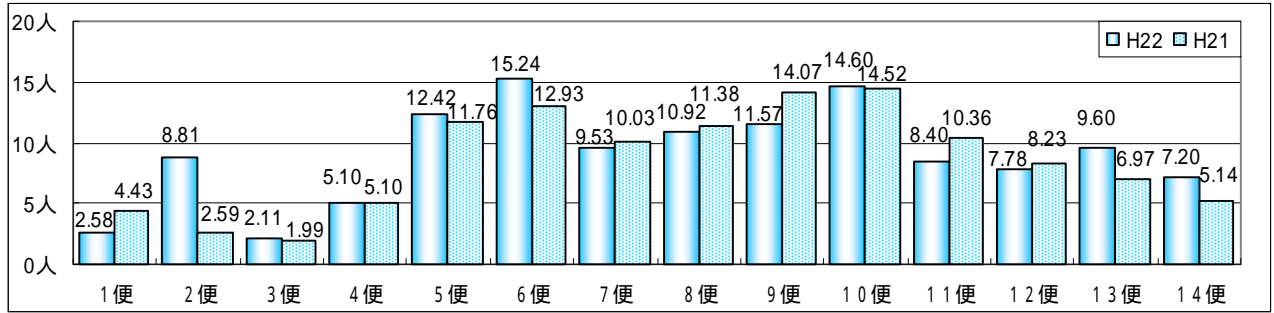


J R当別駅南口行

図 2-2-14 土日祝日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

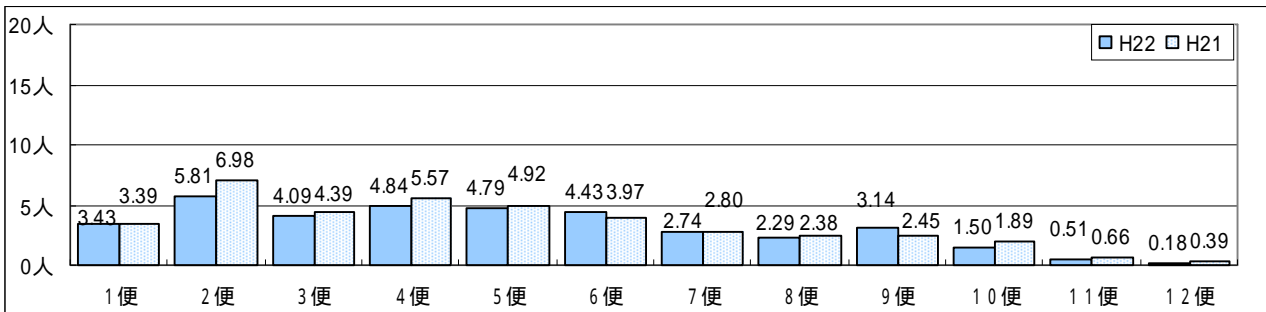


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

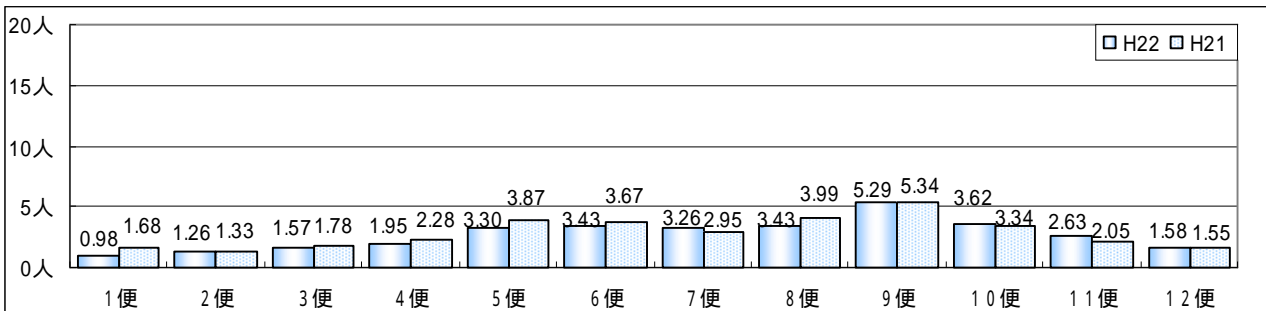


J R当別駅南口行

図 2-2-15 平日 1 便当たり平均利用者数 (H22 と H21 の比較)



J R太美駅、ロイズふとみ工場行



J R当別駅南口行

図 2-2-16 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H22 と H21 の比較)

(5) みどり野・青山線の推移

とうべつ整形外科の無料送迎車の再開による通院者の利用が減少したことにより、過去最低の利用者数となった。

長期休暇のある5月、8月、1月の減少が見受けられないことから、通学利用者の減少も多いと想定される。

冬季の利用者の伸びが少ないことから、市街地から遠いこともあり自転車など他の交通モードからの転換が少ない。

当別駅南口行は午前中の利用が多く、みどり野・青山行は午後の利用が多い。

昨年と比較し当別駅南口行午前中の利用が減少している。

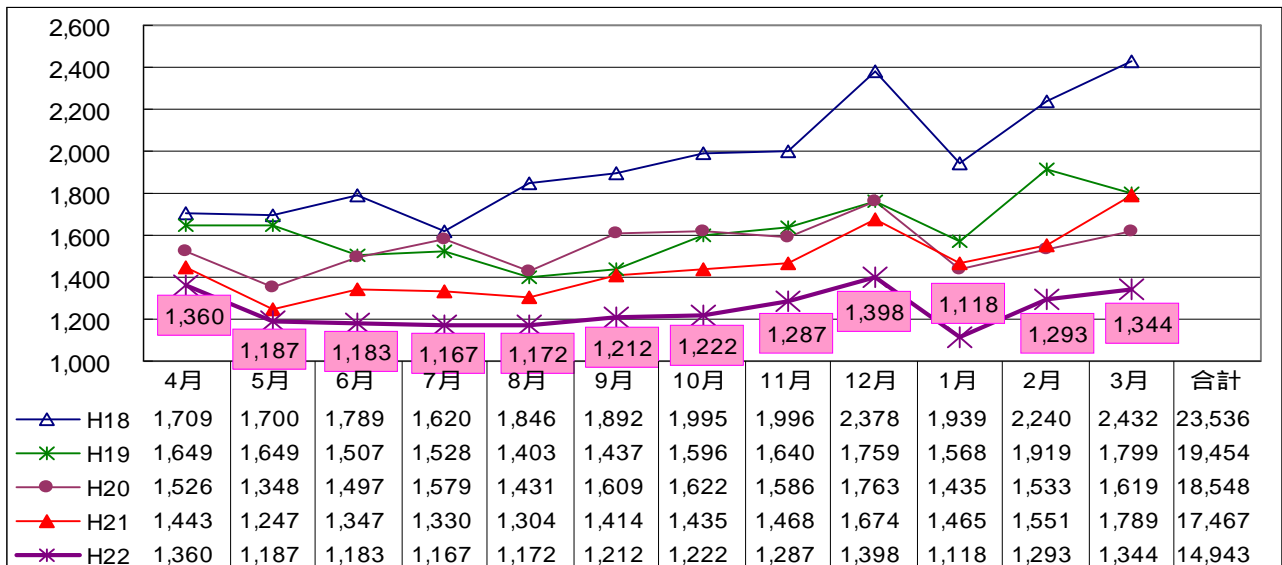
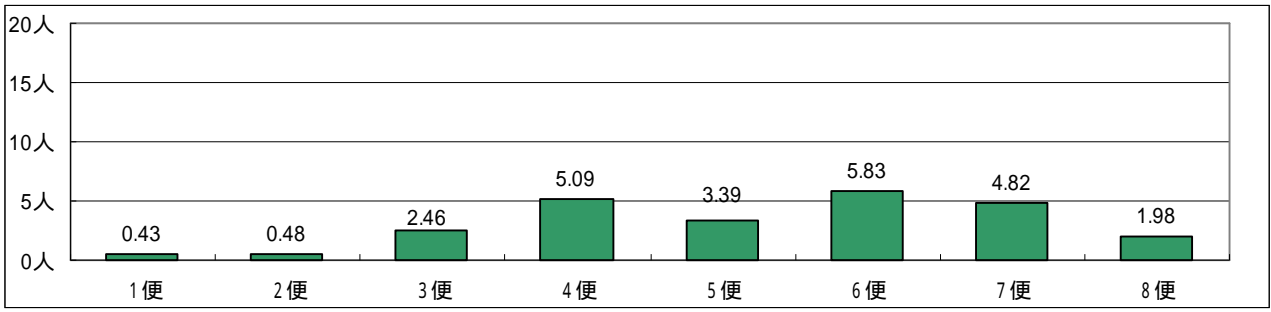
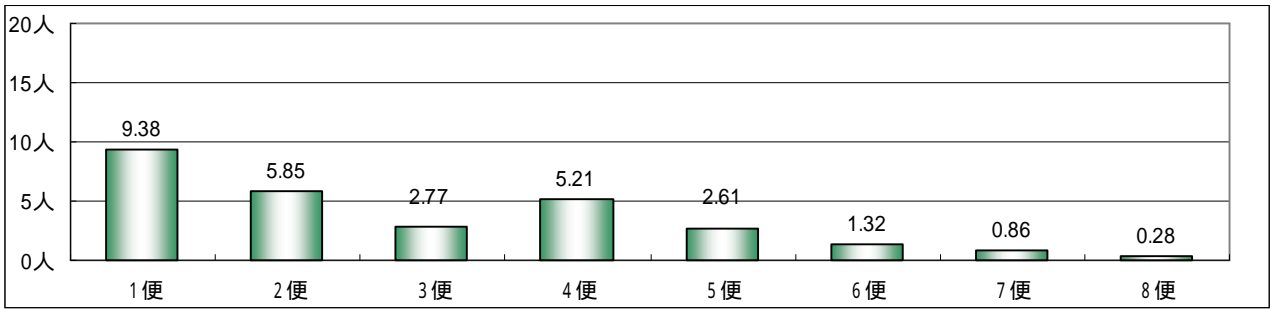


図 2-2-17 月別利用者推移

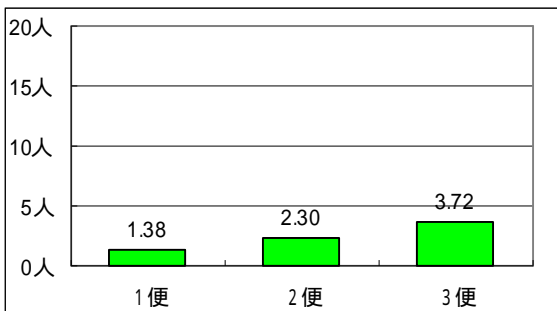


みどり野会館・青山会館行

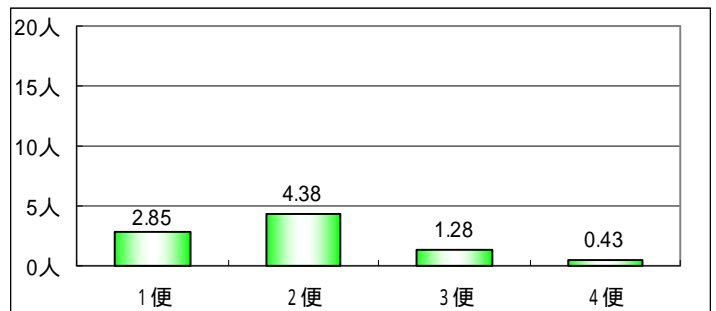


J R当別駅南口行

図 2-2-18 平日 1 便当たり平均利用者数

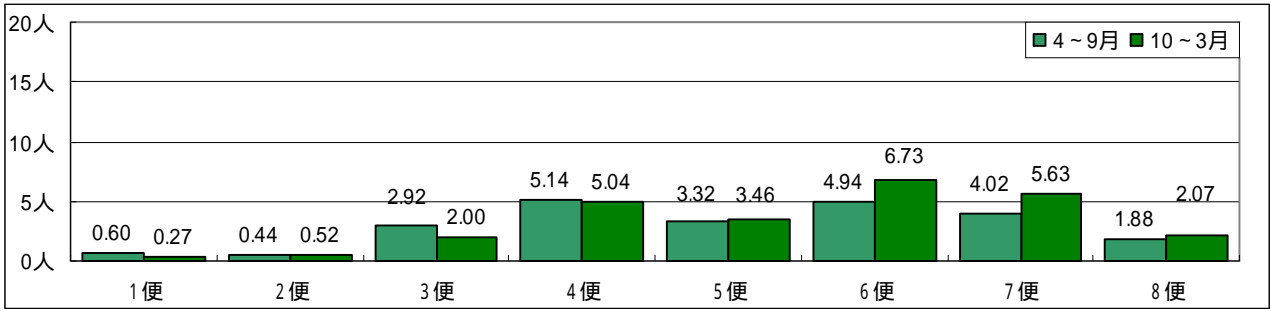


青山会館行

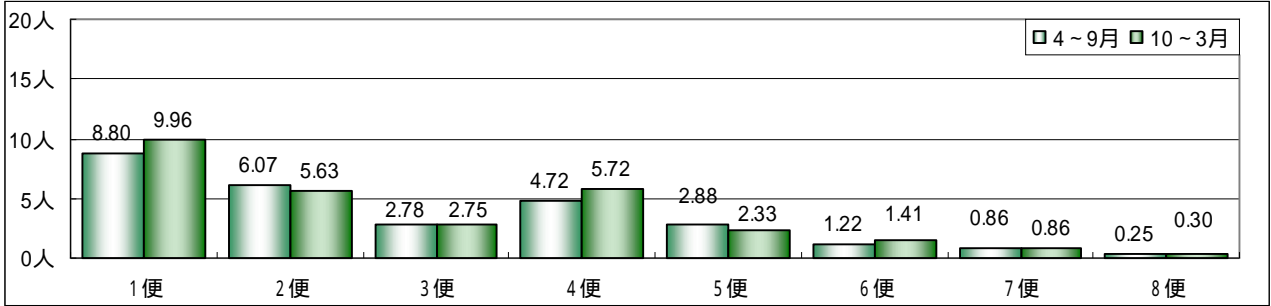


J R当別駅南口行

図 2-2-19 土日祝日 1 便当たり平均利用者数

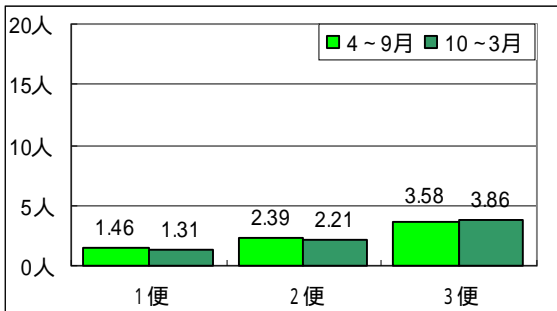


みどり野会館・青山会館行

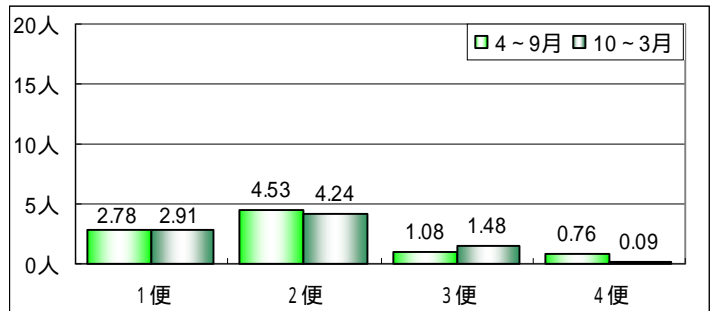


J R当別駅南口行

図 2-2-20 平日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

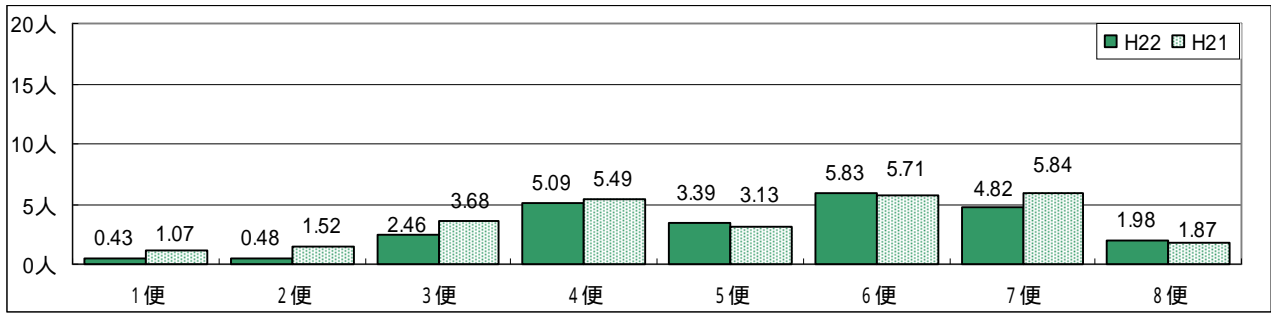


青山会館行

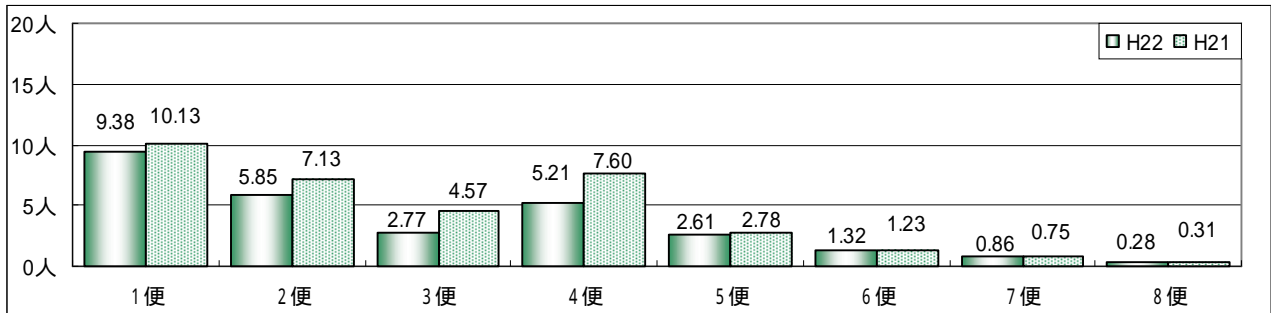


J R当別駅南口行

図 2-2-21 土日祝日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

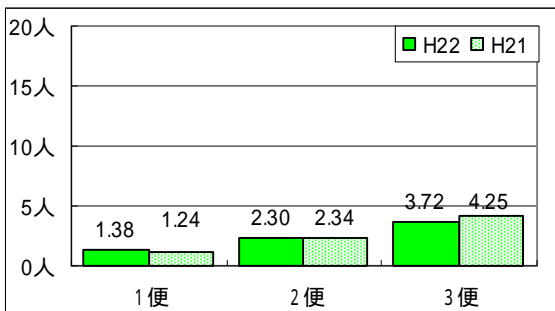


みどり野会館・青山会館行

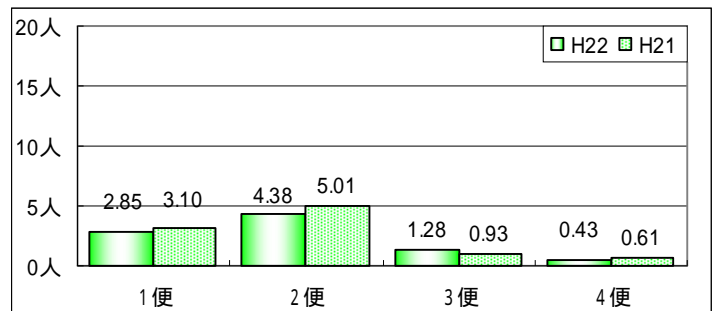


J R当別駅南口行

図 2-2-22 平日 1 便当たり平均利用者数 (H22 と H21 の比較)



青山会館行



J R当別駅南口行

図 2-2-23 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H22 と H21 の比較)

### 3. 運行コストと運行収入

#### (1) 運行コスト

実証運行事業の結果、「平成22年度当別町コミュニティバス」の運行コストは、年間4,642万円となり、その内訳は約7割5分が人件費、1割強が車両費、残りをその他で占めている。年度途中のダイヤ改正でSuiSuiふれバの廃止や各路線の減便により、車両を1台減らし、人件費・車両費を抑えることができた。

また、昨年に引き続きバイオディーゼル燃料をふるさと雇用再生特別対策推進事業による委託により賄ったことと、冬季の使用も可能し使用量増やしたことで、燃料費も抑えることができ、総事業費は昨年度より500万円ほど減額となった。

項目	金額	備考	構成比
人件費	34,536,600円	運転手・事務員人件費	74.4%
車両費	5,664,267円	バス借上料・メンテナンス・保険料	12.2%
燃料費	2,284,700円	軽油・バイオディーゼル燃料	4.9%
バス停費	1,501,134円	停留所借上料・維持管理費等	3.2%
その他諸経費	1,885,516円	運行管理費・定期券作成・清掃費等	4.1%
消費税	543,447円	人件費・保険料を除く	1.2%
支出(運行コスト)計	46,415,664円		
1kmあたり運行コスト	170.1円/km		
1人あたり運行コスト	331.6円/人		

表2-3-1 平成22年度 当別町コミュニティバス運行コスト

#### (2) 運行収入等

運行収入は、現金による運賃収入と全路線乗り放題の応援券(定期券)回数券のほか、今年度から販売した1日乗車券の販売収入がある。応援券については、町内に6ヶ所の販売所を設け、販売枚数1枚につき100円の手数料を販売所に対して支払い、その差額が応援券収入となっている。

昨年に続き現金収入や応援券販売額が減少しているが、回数券の販売額が増加している。1日乗車券も毎月同程度の販売額があり、総額では昨年の実績を上回った。

	運行収入					広告収入	収入合計
	運賃収入	応援兼販売額	回数券販売額	一日乗車券販売額	運行収入合計		
H22.4月	373,400円	1,161,100円	310,000円	500円	1,845,000円	24,500円	1,869,500円
5月	305,800円	119,600円	232,000円	2,300円	659,700円	24,500円	684,200円
6月	291,000円	53,000円	252,000円	3,100円	599,100円	24,500円	623,600円
7月	327,800円	128,000円	216,000円	2,800円	674,600円	24,500円	699,100円
8月	298,000円	105,700円	232,000円	7,400円	643,100円	24,500円	667,600円
9月	284,000円	650,200円	220,000円	3,600円	1,157,800円	24,500円	1,182,300円
10月	345,500円	417,100円	250,000円	6,800円	1,019,400円	24,500円	1,043,900円
11月	345,100円	114,900円	226,000円	7,300円	693,300円	24,500円	717,800円
12月	361,400円	160,100円	268,000円	5,600円	795,100円	24,500円	819,600円
H22.1月	358,900円	80,300円	236,000円	6,000円	681,200円	24,500円	705,700円
2月	336,600円	61,600円	258,000円	6,100円	662,300円	24,500円	686,800円
3月	373,800円	42,500円	284,000円	3,500円	703,800円	24,500円	728,300円
合計	4,001,300円	3,094,100円	2,984,000円	55,000円	10,134,400円	294,000円	10,428,400円

表2-3-2 収入一覧

販売店名	所在	電話番号	取扱時間
当別町商工会	錦町 1248	23-2447	9:00～17:00(平日のみ)
当別赤れんが6号(ふれあい倉庫)	錦町 294-4	27-6600	9:00～18:00(月曜定休)
当別町社会福祉協議会(高齢者クラブ連合会事務局)	西町 32-2 総合保健福祉センター内	22-2301	9:00～17:00(平日のみ)
(有)下段モータース	樺戸町 1055 番地	23-2630	9:00～18:00
スウェーデンヒルズ管理センター (スウェーデンハウス(株))	スウェーデンヒルズ V2-3-2	26-2348	9:00～18:00
(株)小島商店	太美町 1484	26-2410	8:00～21:00

表 2-3-3 応援券販売箇所一覧

	一般				小中学生・高校生・障がい者・介護人						応援券 売上枚数 合計
	1ヶ月 (4,000円)	3ヶ月 (10,000円)	6ヶ月 (16,000円)	小計	1ヶ月 (2,000円)	3ヶ月 (5,000円)	6ヶ月 (8,000円)	限定小学生 (500円)	限定中学生 (1,000円)	小計	
4月	13枚	4枚	50枚	67枚	18枚	9枚	25枚	0枚	0枚	52枚	119枚
5月	9枚	1枚	3枚	13枚	9枚	2枚	0枚	0枚	0枚	11枚	24枚
6月	6枚	0枚	0枚	6枚	13枚	1枚	0枚	0枚	0枚	14枚	20枚
7月	8枚	2枚	1枚	11枚	12枚	3枚	0枚	23枚	16枚	54枚	65枚
8月	6枚	1枚	1枚	8枚	12枚	5枚	1枚	1枚	1枚	20枚	28枚
9月	8枚	0枚	33枚	41枚	12枚	0枚	9枚	1枚	0枚	22枚	63枚
10月	8枚	2枚	12枚	22枚	18枚	3枚	16枚	0枚	0枚	37枚	59枚
11月	9枚	4枚	0枚	13枚	16枚	2枚	0枚	0枚	0枚	18枚	31枚
12月	9枚	5枚	0枚	14枚	17枚	5枚	0枚	13枚	15枚	50枚	64枚
1月	9枚	1枚	0枚	10枚	16枚	1枚	0枚	0枚	0枚	17枚	27枚
2月	8枚	0枚	0枚	8枚	16枚	0枚	0枚	0枚	0枚	16枚	24枚
3月	7枚	0枚	0枚	7枚	8枚	0枚	0枚	0枚	0枚	8枚	15枚
合計	100枚	20枚	100枚	220枚	167枚	31枚	51枚	38枚	32枚	319枚	539枚

表 2-3-4 応援券販売枚数一覧



**(3) 無料利用者**

参加事業者が独自で行っていた輸送サービスを一元化し、「官民共同による運行」を実現させるために、従来のサービスを低下させないよう一定の条件において無料で利用することができる。

北海道医療大学の病院利用者は昨年同様で推移しているが、学生の利用が顕著に伸びている。大学の講義1講目にあわせたダイヤを組んでいることと新入生へのオリエンテーションでの広報活動によるものと考えられる。

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス	あいの里線 金沢線	当該大学の学生及び教職員 付属病院の患者	往路：診察券・学生証の提示 復路：無料チケットの交付
スウェーデンハウス	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	西当別線 あいの里線	一般住民	スウェーデンヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える
とうべつ整形外科	当別町六軒町にある当該病院の利用	市街地循環線 みどり野線 青山線	当該病院の患者	往路：診察券の提示 復路：無料チケットの交付

とうべつ整形外科は平成22年3月31日の脱会をもってサービスも廃止

表2-3-5 従来のサービスによる無料対象者一覧

参加事業者	平成22年度 使用枚数	平成21年度 使用枚数	増減 (H21 H20)	(参考)平成20年度 使用枚数
北海道医療大学 (患者)	3,507枚	3,734枚	227枚	3,763枚
北海道医療大学 (学生)	25,343枚	22,179枚	3,164枚	19,230枚
とうべつ整形外科 (患者)		2,883枚		3,687枚
合計	28,850枚	28,796枚	54枚	26,680枚

表2-3-6 無料チケット使用枚数

## 4. SuiSuiふれバの実績

### (1) 概要

平成20年度から開始した「SuiSuiふれバ」は2年半の実証運行を実施してきたが、運行コストからの採算ラインである乗車数6人程度に届かず、自主自立する本格運行時には大きな負担となり廃止することとなった。

昨年度実施したキャンペーン時には金曜日の平均利用者数が10人を超えるなど、潜在需要を確認することはできたが、潜在需要を利用者に転換させることができなかった。

### 実施概要

利用料金 1,000円（応援券提示者は500円）

運行曜日 金曜日および土曜日とし、予約の無い場合は運休。

降車場所 当別町内のふれあいバス停留所（ただし第8組合以北の停留所を除く）

予約方法 利用日2週間前から当日20時まで下段モーターズに氏名・住所・電話番号・降車停留所を伝えて予約。

20時以降のキャンセル又は連絡なしで乗車しない場合は、キャンセル料として利用料金と同額を請求。

予約が無い場合でも乗車を可能としているが、満席になった場合は予約のない人は全員利用できない。

### (2) 利用実績

利用実績については、本年度11月末で廃止としたことから、2年8カ月の実績を次の通り整理した。金曜日の平均利用者は4.14人と昨年と同様4人の利用を確保したが、合計平均をみると、3.60人と採算ラインの6人まで利用者を増やすことはできなかった。

#### 平成22年度利用実績（11月末で廃止）

	運行回数			乗車数			収入	
	運行	うち1名利用	運休	総数	平均	最大	総額	平均
金曜日	29回	1回	6回	120人	4.14人	8人	103,500円	3,569円
土曜日	29回	2回	6回	89人	3.07人	6人	83,500円	2,879円
合計	58回	3回	12回	209人	3.60人	8人	187,000円	3,224円

#### 平成21年度利用実績

	運行回数			乗車数			収入	
	運行	うち1名利用	運休	総数	平均	最大	総額	平均
金曜日	46回	5回	5回	219人	4.76人	16人	203,500円	4,424円
土曜日	38回	9回	14回	104人	2.74人	5人	101,000円	2,658円
合計	84回	14回	19回	323人	3.85人	16人	304,500円	3,625円

#### 平成20年度利用実績

	運行回数			乗車数			収入	
	運行	うち1名利用	運休	総数	平均	最大	総額	平均
金曜日	44回	4回	8回	165人	3.75人	10人	158,500円	3,602円
土曜日	42回	12回	10回	118人	2.81人	9人	112,500円	2,679円
合計	86回	16回	18回	283人	3.29人	10人	271,000円	3,151円

表2-4-1 SuiSuiふれバ利用状況

## 5. 夏休み冬休み子ども定期券の販売

### (1) 概要

昨年に引き続き小中学校向けモビリティ・マネジメント展開の一環として、学校の長期休暇にあわせて、格安の応援券の販売を行った。

### 利用概要

料金	小学生 500 円、中学生 1,000 円
利用期間	夏季：平成 22 年 7 月 23 日（金）～8 月 19 日（木） 冬季：平成 22 年 12 月 23 日（木）～平成 23 年 1 月 16 日（日）
購入場所	ふれあいバス応援券販売所
利用方法	ふれあいバス応援券と同様

### 利用実績

夏季	小学生 25 枚、中学生 17 枚、合計 42 枚
冬季	小学生 13 枚、中学生 15 枚、合計 28 枚



図 2-5-1 夏休み子ども定期券



図 2-5-2 冬休み子ども定期券

(2) 広報

子ども定期券の販売に当たっては、周知を図るためチラシを作成し配布した。

広報概要

夏季

新聞に折り込みを実施(7月16日)

学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布

冬季

新聞に折り込みを実施(12月16日)

学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布



図 2-5-3 子ども定期券周知用チラシ



## 第3部 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

### 1. 小中学生向けモビリティ・マネジメントの実施

#### (1) 事業の計画

小中学生に対して社会学習の一環として、公共交通と環境教育を組み合わせた授業を、平成20年度より実施している。

平成22年度は昨年度の授業内容と同様にコミュニケーションツールを用いた授業を、町内小学校2校で実施した。学校の特色を生かしながら、2校それぞれで異なる授業の組み合わせを行い、当別町における授業スタイルを構築するため、検討を行った。

#### (2) 授業の実施

町内小学校において2校3回の授業を行った。地球温暖化の視点から公共交通の重要性を説く「かしこいクルマの使い方」、当別ふれあいバスで使用しているバイオディーゼル燃料を題材とした「てんぷら油でバスが走る」の2つを中心に、交通日記を用いた授業、行動プラン法の実践の授業の2種類の授業を行った。

授業終了後、アンケートを実施し今後の事業の参考とした。

#### 西当別小学校（実施：平成22年11月10日 5年1・2組 3・4・5時間目）

西当別小学校では、1時間目、「地球温暖化が与える影響」や「交通事故、健康の話」などを学習し、クルマが地球や人に与える影響についての授業を行った。

2時間目は、「かしこい車の使い方」を学習した後、バスマップを活用して、自宅から設定した目的地まで、バスを利用して行くルートを自分で探し出した。時刻表の見方や乗換えの方法を机上で学び、バス利用への障壁を低くすることが目的である。

3時間目は、ふれあいバスに試乗し、実際のルートの確認と、バイオディーゼル燃料の排気ガスのおいを嗅ぐ体験をした。また、使用済みてんぷら油から精製されるバイオディーゼル燃料についての授業を実施した。



写真 3-1-1 西当別小学校授業風景

当別小学校1回目（実施：平成22年11月24日 5年生1～3組 2～3時間目）

当別小学校は、「交通日記」及び「診断カルテ」を用いて、自身の交通行動によるCO2排出量を、目に見える形で児童に提供することにより、公共交通の優位性を説く授業を2回に分けて行った。

「地球温暖化のメカニズム」や「地球温暖化の影響」などを当別町の水没シミュレーション等のコミュニケーションツールを用いた授業を行った後、「交通日記」の記入方法を説明し、児童と保護者に3日間の交通行動を記録してもらった。

### 金曜日 記入例1

(1)日付：12月4日 右の欄の「日」は利用した交通機関です。実際の記入するときは「日」は半角です。  
 (2)外出しなかった日：□  
 (1日中、外出しなかった方はしるしをつけてください。)  
 (3)1日の初めにいた場所（しるしをつけてください。）、自宅、学校、コンビニ、その他口（具体的な口）  
 (4)あなたの1日の動きを右の欄に記入してください。  
 ○の中に移動名などを簡単に記入し、矢印の向きで移動した順序（矢印No.）を記入してください。  
 (5) (4)で指した窓について、利用交通機関ごとにくわしくご記入ください。左側の矢印No.の欄には(5)の窓の矢印No.を記入してください。

矢印No./出発時間	行き先	目的	利用交通機関	到着時間
1 / 7:35	本妻駅	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	7:45
2 / 7:40	札幌駅	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	8:20
3 / 8:20	勤務先	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	8:30
4 / 13:00	市役所	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	13:10
5 / 16:30	勤務先	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	16:40
6 / 18:10	札幌駅	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	18:15
7 / 18:20	あいの里教育大駅	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	18:40
8 / 18:49	スーパー	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	18:55
9 / 19:40	バス停 あいの里教育大	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	19:50
10 / 19:54	バス停 本妻郵便局	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	20:10
11 / 20:10	自宅	通学目的 ①通学 ②買い物 ③社交交際 ④送迎 ⑤その他	徒歩・自転車 ①バス ②950～1500円 ③乗車 ④その他	20:15

まず、あなたのことについて教えてください。  
 記入もしくは、口に✓（チェック）をつけてください。

① クラス・出席番号	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
② 性別	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____

交通日記の記入例は2ページ目に記載してあります。  
 また、3ページ目以降に、下記の記録の注意をお読みください。記録をお願いします。

（交通日記の記録の注意）

- (1) 12月4日（金）から12月6日（日）までの3日間を記録してください。
- (2) 外出しなかった日は、「1日の動き」の欄に「自宅」「実家」など居た場所を記入してください。
- (3) 「1日の動き」の欄には、用事を済ますための施設名を記入してください。  
 例）自宅・実家・勤務先・通学先・取引先・市役所・デパート・スーパー・ショッピングセンター・薬局・金物屋・造屋・たばこ屋・本屋・床屋・コンビニエンスストア・パチンコ屋・病院
- (4) 「1日の動き」の矢印No.は毎々の記入欄の「矢印No.」に宛合わせます。  
 同じ矢印No.の中で有用した交通機関すべてを記入してください。  
 例）「自宅→勤務先」の移動に自動車、地下鉄、徒歩を利用したときは3つの交通手段をそれぞれ1行ずつ記入します。
- (5) 「行き先」の欄には、用事を済ますための施設名または駅名・停留所名を記入してください。
- (6) 営業などで細かい外出を繰り返す方は、目的を「営業目的」としてひとまとめに記入してください。  
 例）A、B、C、D、E社をまわった場合は勤務先→取引先→取引先→勤務先のようにまとめて記入してください。

ご記入いただいた、この交通日記を基に、移動においての二酸化炭素排出量やカロリー消費量等を計算し、ご提供いたします。  
 なお、提出は、12月8日（火）までにお願いいたします。

図 3-1-3 交通日記

当別小学校2回目（実施：平成22年12月20日 5年生1～3組 1～4時間目）

記入してももらった「交通日記」をもとに自身の交通行動により発生するCO2の量や消費したカロリーを明示した「交通診断カルテ」を配布した。授業では「交通診断カルテ」の説明を行い、「かしこいクルマの使い方」の実践方法の解説を行った。

授業の後半は、「てんぷら油でバスが走る」の授業として、バイオディーゼル燃料の特徴などを説明した後、実際に持ち込んだバスで実際の体験やバス路線の試乗などを行った。

また、授業後にはアンケートを実施し、公共交通の利用意識や授業の内容、バイオディーゼル燃料に関する設問を設置し、今後の事業の参考とした。

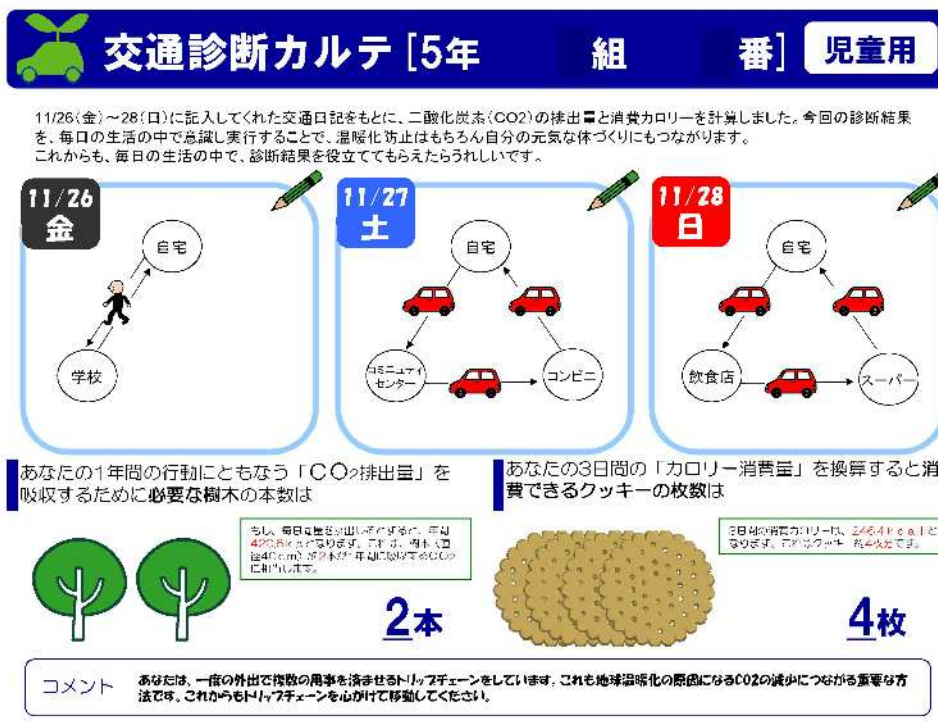


図 3-1-4 交通診断カルテ



写真 3-1-2 当別小学校授業風景

授業で使用したスライドは参考資料「小中学生向けモビリティ・マネジメント使用スライド」を、アンケート調査の結果は参考資料「西当別小学校授業後アンケート調査の結果」、「当別小学校授業後アンケート調査の結果」を参照



## 2. 大学生向けモビリティ・マネジメントの実施

ふれあいバスの利用者である北海道医療大学生向けに、ふれあいバスの利用に関するパンフレットを作成、配布することで、大学生のふれあいバス利用を促す。

昨年度末に作成したパンフレットを新入学生向けのオリエンテーションなどで、ふれあいバスの説明と共に配布し、大学生の積極的な利用を図る。

### 実施概要

- 作成概要 A4版カラー両面刷り8つ折り
- 内容 表面：金沢線、あいの里線時刻表及び路線図、無料乗車方法の説明  
裏面：クルマと環境・事故・コストに関するコラム  
バイオディーゼル燃料に関する説明



図 3-2-1 大学生向けリーフレット



### 3. 住民向けモビリティ・マネジメントの実施

住民向けモビリティ・マネジメントとして、利用者が少ない市街地循環線地区の住民を対象として実施した。

モビリティ・マネジメントの手法としては、「車の費用に関する情報」、「公共交通利用による健康情報」、「車利用による事故に関する情報」などを記載した動機付け冊子と市街地循環線の路線図・時刻表をアンケート調査表に同封し地区住民に配布した。動機付け冊子を読むことで、車から公共交通への利用に意識を向けさせることができ、アンケート調査では、普段の移動手段・行動パターンを再認識させるとともに、市街地循環線の利用パターンを考えさせることで、バス利用の可能性を広げることができると考える。

#### 実施概要

- 配布資料 動機付け冊子（A5 版カラー、8 ページ） 市街地循環線路線図・時刻表  
アンケート調査表
- 配布時期 とうべつ広報 2月号と合わせて配布
- 対象地区 市街地循環線走行地域町内会



図 3-3-1 動機付け冊子

## 4. ニュースレターの発行・交通マップの作成

### (1) ニュースレターの発行

住民に対し公共交通への理解を深めてもらうことを目的として、平成21年度に引き続き、事業の状況や公共交通に関する情報を定期的に発信した。本年度は6回発行し、ふれあいバスに関する情報のほか、協議会等の開催状況の報告や各種連携計画事業の周知などを掲載し、住民に対しての情報公開を進めた。

号数	発行月	掲載内容	仕様
第1号	7月	-第1回協議会開催報告 -夏休み子ども定期券の発売のお知らせ -平成21年度ふれあいバス利用状況報告 -バスまつり2010開催のお知らせ	A4 両面
第2号	8月	-第1回当別町コミバス運行事業者連絡会議の開催報告(本格運行むけ協議開始) -北海道日本ハムファイターズ観戦ツアー開催報告 -夏休み子ども定期券好評発売中のお知らせ -バスまつり2010開催のお知らせ	A4 両面
第3号	9月	-バスまつり2010詳細の開催案内 -第2回当別町コミバス運行事業者連絡会議の開催報告 -JCOMMプロジェクト賞受賞の報告 -当別ふれあいバス運賃割引制度のお知らせ	A4 両面
第4号	11月	-12月1日ダイヤ改正・路線変更のお知らせ -バスまつり2010開催結果の報告 -バス待合所の寄贈のお知らせ	A4 両面
第5号	12月	-冬休み子ども定期券の発売 -新ダイヤスタートのお知らせ -西当別小学校での「交通と環境」学習実施の報告	A4 両面
第6号	3月	-平成23年4月本格運行開始について -市街地循環線沿線住民にアンケート調査のお願い -当別小学校での「交通と環境」学習実施の報告 -運行事業者のサービス・接遇研修の実施について -使用済みてんぷら油回収のお願い	A4 両面

表3-4-1 ニュースレター発行内容一覧

### (2) バスマップの作成

平成22年12月1日付けのダイヤ改正に合わせて、新ダイヤの周知を図るとともに、ふれあいバスの認知度を再度高めるために、当別ふれあいバスを中心としたバスマップを作成した。当別ふれあいバスの路線図・時刻表・料金体系などを掲載するほか、使用済みてんぷら油の回収の情報、当江線の時刻表を掲載したほか、図書回収サービスの内容とバスの乗り方を記載した。

また、A2両面カラーで作成し、持ち運びやすいポケットサイズとなるように特殊なおり方を採用したほか、書き込みしやすい普通紙による印刷とした。

ニュースレター・バスマップの内容は参考資料「ニュースレター(第1号~第6号)」、「バスマップ」を参照。

## 5. 利用促進ツアーの実施

### (1) 利用促進ツアーの実施

ふれあいバスを利用している方々へ感謝の気持ちを還元するとともに、新たな利用者を発掘するため、バスツアーを企画した。本人以外のペア参加者の資格も、町内在住者及び町内に学校・勤務先がある人に限定して実施することで、バスの潜在需要の発掘を図った。

北海道日本ハムファイターズの市町村応援デーを利用したバスツアーを企画し、球団から無償でチケットを確保した。今年度は当別町の140年を記念する年であることから、参加者70組140名を募集した結果、140名に達しなかったが、昨年度より参加者を増やすことができた。

しかし、参加者は昨年のツアーにも参加された方が多く、新たな利用者を発掘できたとは言いきれない。参加の条件としてバスに関するアンケートを実施し、交通に関する意識や、協議会の事業に関する意見を募った。

実施にあたっては、新聞にチラシを折り込み、普段バスを利用しない人に対しても周知を行い、新規利用者の発掘を図った。また、チラシの裏面には4月1日からの路線変更と1日乗車券発売のお知らせ掲載し、ふれあいバスの利用促進を図った。

また、当日は当別ファイターズクラブの協力の下、参加者の誘導や車内での観戦マナーの指導やサイン色紙などの抽選会を行った。

### 実施概要

実施日時	平成22年7月9日(金)
行き先	札幌ドーム
参加資格	バス利用の際、運転手からスタンプ貰い3個で応募可能。応募は1人1枚。
応募期間	平成22年5月17日から平成22年6月16日

### 実施結果

参加者	一般参加者 111名、スタッフ 26名
行程	15:50 当別町総合体育館発 16:10 西コミセン経由 17:20 札幌ドーム着 16:00 当別町総合体育館発 → 17:20 札幌ドーム着



写真 3-5-1 利用促進ツアー写真

(2) ホスピタリティ向上事業の実施

乗客が再度利用したくなるバスを目指し、当別ふれあいバスの運転手に対し、サービス・接客研修を実施し、接客技術の向上を目指す。

利用者への接遇をよくすることで、安定した利用者数を確保する。

研修の概要

- 開催日 平成23年1月29日(土)
- 開催時間 16:00~17:30
- 開催場所 田西会館
- 研修対象者 (有)下段モータースの運転手及び運行管理者
- 講師 安村真理(ボイス・オブ・サッポロ)

**サービス・接客研修プログラム**

■開催日/平成23年1月29日(土)  
 ■開催時間/16:00~17:30  
 ■開催場所/田西会館

研修が始まる前に、アンケート調査にご協力をお願いします。

**ボイス・オブ・サッポロ**  
 【講師】  
 安村真理氏  
 ・1日企業人社員  
 ・21世紀のリーダー育成 講師  
 ・松山大学・徳島大学・社会  
 福祉大学・徳川大学の教員  
 ・経営者 講師  
 ・のれん、テレビ、ラジオ、イベント等で活躍中。

時間	研修タイトル	研修内容
16:00 ~ 16:10	働くごとの心構え	「お金をいただく働く」ということは、その業のプロであることが要求されます。外部のみならず、社内の人々、職場内でも、いかに明るく前向きなムードを作れるか、その心構えとプロ意識を磨きます。
16:10 ~ 16:30	服装・身だしなみ	「人は見た目が9割」 接客業として、お客様に不快な思いをさせない服装、身だしなみについて。
16:30 ~ 16:50	表情レッスン	「笑顔の作り方」 第一印象は、その人の表情で6~7割決まっています。表情は、それほど力を持っているのです。
16:50 ~ 17:10	発声練習	「挨拶の練習~言葉遣い~」 口の体操で、伝わりやすい話し方を練習します。
17:10 ~ 17:20	敬語・言葉遣い	正しい敬語で人間力UP。
17:20 ~ 17:30	伝える・伝わるコミュニケーション	より良い人間関係を築くために。

## 2 サービスやホスピタリティの必要性

- ホスピタリティとは？
 

最近、「ホスピタリティ」という言葉を聞く機会が増えています。「歓待・厚遇」などの意味ですが、一番しっくりくるのが「おもてなし」です。

「もてなすという精神」。友だちが遊びにできれば、お酒の一杯でも出してみる。疲れた伴侶が帰ってくれば、お風呂の一つくらい沸かしてやる。そんな気遣いや優しさと相違ないものでしょう。これは当然昔から日本人に備わっていた心意気の一つです。それが今になって注目を浴びているのは、「今まで「おもてなし」という感覚が表れにくかった場面、わざわざ表していなかった場面、あるいは少し忘れられていた場面、もう一度この心意気を見直そう」という風潮があるためだと思われます。

誰かが気持ちよく時間を過ごせるように、お客様に快く利用してもらえるように、皆さんが元々持っている心意気「もてなすという精神」が改めて期待されているのです。
- 運転手の評価とお客の満足度調査より
 

筑波大学の谷口綾子講師は、バス運転手の接客評価、運転操作評価を行い、乗客の総合満足度調査を行っています。その結果、良好な接客態度がお客の満足度をアップさせ、バス交通の評価が向上しています。

図3-5-1 研修プログラムと接遇マニュアル(抜粋)



## 6. バスマつりの開催

### (1) 実施概要

ふれあいバスの利用促進を図るため、様々なバスの展示・試乗会を中心に、交通と環境に関するイベントや展示を実施した。

#### 実施概要

日時	平成22年10月9日(土) 10:00～14:00
会場	JR石狩当別駅南口駐車場及びふれあい倉庫
出展団体	北海道運輸局、北海道地方環境事務所、ジェイアール北海道バス、北海道中央バス、下段モータース、イフェクト、商工会青年部、ハレルヤ農産、中出化粧品
その他	当日は土曜日だが、平日ダイヤにて運行し、バスによる来場を促した。
来場者数	約4,500人

### (2) 実施内容

**ファイターズ号・まき太郎の展示と試乗会(ジェイアール北海道バス・北海道中央バス)**  
 ジェイアール北海道バスが所有する、日本ハムファイターズの選手送迎用バス「ファイターズ号」と北海道中央バスが所有し、石油の代替燃料として薪を焚いて走行する「まき太郎」の展示と試乗会を行った。試乗会は「ファイターズ号」、「まき太郎」とともに1回15分程度で、1時間おきに計4回実施し、市街地循環線の一部を走行することとしていたが、試乗の希望者が予想を上回る人数となったため、予定回数の2倍の8回実施した。



写真 3-6-1 ファイターズ号の展示  
及び試乗会



写真 3-6-2 まき太郎の展示及び試乗会

### ふれあいバス車両「ポンチョ」の展示

ふれあいバス車両の小型ノンステップバス「ポンチョ」を展示した。運転席には運転手の帽子を置き、自由に記念撮影をできるようにして、多くの来場者がふれあいバスに親しみをもってもらい、バス利用のきっかけとした。



写真 3-6-3 ポンチョ展示



### セグウェイの試乗会（イフェクト）

さまざまな交通手段の一つとして、電動で環境にやさしい近未来の乗り物セグウェイの試乗会を行った。試乗はインストラクターの指導のもと実施され、約100名の試乗体験を実施した。



写真 3-6-4 セグウェイの試乗会

### バスの乗り方教室とバリアフリー教室（北海道運輸局）

北海道運輸局旅客第一課の協力により、展示したふれあいバスポンチョを使用して、バスの乗車マナーなどを教えるバスの乗り方教室を実施した。クイズなどを交えて、子供にも分かりやすく説明した。

また、ノンステップバスである本車両を使用して、消費者行政・情報課とNPO法人「手と手」による、車椅子を使用したバリアフリー教室を実施した。



写真 3-6-4 バスの乗り方教室・バリアフリー教室

### バイオディーゼル燃料サンプル展示と使用済みてんぷら油の回収（下段モータース）

当別ふれあいバスでのバイオディーゼル燃料の取り組みについてパネルを使用して照会し、バイオディーゼル燃料の精製工程サンプルを展示するなど来場者にPRした。

また、原料となる使用済みてんぷら油を会場で回収し、持ち込んだ来場者に対して記念品を進呈した。



写真 3-6-5 バイオディーゼル燃料サンプル展示と使用済みてんぷら油の回収

### 飲食出店と子供縁日の実施

（商工会青年部、ハレルヤ農産、中出化粧品、下段モータース）

来場者が会場でゆっくり楽しく過ごせるように、飲食物の販売を行った。昨年販売したフランクフルトのほか、商工会青年部事業の石狩管内小学生による子ども屋台では、焼き鳥や焼きそばなどの販売を行い昨年より充実した飲食販売とした。

また、同時開催しているさわやか駅伝で小中学生の来場者が増えるため、子供向けの縁日も実施し、くじや型抜きのほかポップコーンの販売も行った。



写真 3-6-6 飲食出店と子供縁日



### 来場者アンケートとスタンプラリー、バス利用者に対する記念品

来場者に対して交通に関するアンケートを実施し、ふれあいバスのお試し乗車券と記念品を進呈した。また、会場内でのイベントに参加してスタンプを集めるスタンプラリーを実施し、多くのイベントに参加してもらうようにした。

アンケートでは、バス利用に関する設問や環境・交通に関する意識調査を実施し、協力者の環境への意識啓発も行った。

このほか、ふれあいバスについて認識を深めてもらうため、ふれあいバスに関する交通クイズ大会を開催し、優勝者には記念品を進呈した。また、バスを利用して当日来場した方にも記念品を進呈した。



写真 3-6-7 来場者アンケートと交通クイズ大会

### 交通すごろく大会とぬり絵大会

子供から大人までが楽しく交通とCO<sub>2</sub>排出量について学べる交通すごろくの大会を開催し、子供に対しても交通に関する啓発を行い、子供から大人まで多数の参加があった。

また、ふれあいバスで使用しているポンチョなどを題材としたぬり絵大会も行って、小さな子供にも楽しめるものを行った。



写真 3-6-8 交通すごろく大会とぬり絵大会

ふれあい倉庫「感謝祭&姉妹都市交流まつり」と「さわやか駅伝」の開催について  
 今年度も昨年度に引き続き「さわやか駅伝」大会とふれあい倉庫の農産物販売イベント  
 「感謝祭&姉妹都市交流まつり」を同日開催し、イベント来場者の相乗効果を図った。「さ  
 わやか駅伝」の表彰式をバス祭り会場で行うなど、来場者が会場に滞留するよう工夫した。



写真 3-6-9 ふれあい倉庫「感謝祭&姉妹都市交流まつり」と「さわやか駅伝」

### (3) 広報の実施

開催に当たってはポスターの貼付、チラシの配布、とうべつバス通信や広報とうべつへの掲載、当別町ホームページへの掲載を行った。

#### 作成概要

- ポスター A2 版カラー片面刷り 200 枚作成  
町内主要施設及び JR 駅構内に掲示
- チラシ B4 版カラー両面刷り 20,000 枚作成  
当別町及び札幌市あいの里地区に 10 月 2 日に新聞折込実施
- 中吊り広告 B3 版カラー片面刷り 80 枚作成  
苗穂管轄の車両内に掲示 (10 月 4 日～9 日)



写真 3-6-1  
バス祭りチラシ

バス祭りに関連するアンケート結果は、参考資料「バス祭りアンケート調査（一般）の結果」を参照。



## 7. 使用済みてんぷら油回収とバイオディーゼル燃料の活用

### (1) 使用済みてんぷら油回収に関する事業

平成20年度に構築した一般家庭からの廃食用油回収システムにより、平成21年度からは、当別町の委託事業として運行事業者である下段モータースが単独で実施している。連携計画での取り組みとされている廃食用油回収事業について、この項で事業経過の報告を行う。

#### 町内一般家庭回収拠点

回収拠点は次の9箇所となっており、バスマップに掲載して周知を図っている。

回収場所	住所	備考
下段モータース	当別町樺戸町 1055-22	システム構築以前より回収実施
当別町役場環境生活課	当別町白樺町 58-9	システム構築以前より回収実施
当別熱源	当別町末広 380	システム構築以前より回収実施
ラルズマート当別駅前店	当別町園生 55	平成20年12月1日より回収開始
小島商店	当別町太美町 1184-4	平成20年12月1日より回収開始
山田産商	当別町錦町 1091	平成20年12月1日より回収開始
ラルズストア当別店	当別町樺戸町 106	平成21年3月1日より回収開始
保健福祉センターゆとろ	当別町西町 32	平成22年3月1日より回収開始
西当別コミュニティセンター	当別町太美町	平成22年3月1日より回収開始

表 3-7-1 回収拠点一覧



写真 3-7-1 回収BOX

当別ふれあいバスは、集めたてんぷら油で走っています。

**使用済み てんぷら油回収にご協力ください**

当別ふれあいバスは、使用済みのてんぷら油から精製されるバイオディーゼル燃料(BDF)で運行しています。環境に優しいバスの運行を継続するために、みなさんの協力をお願いします。

**バイオディーゼル燃料のメリット**

- 使用済みてんぷら油を再利用するので、ゴミ削減!
- 軽油を使用しないから、二酸化炭素を削減できて、地球温暖化防止!
- 軽油ガスは軽油よりもクリーン!

**回収場所が2箇所 増えました!**

- ④ 西当別コミュニティセンター (太美町2-2番地7)
- ④ 総合保健福祉センター「ゆとろ」 (西町3-2番地2)

**回収場所一覧**

- 下段モータース (樺戸町1055-22)
- 当別町役場環境生活課 (白樺町58-9)
- 当別熱源 (末広380)
- ラルスマート当別駅前店 (園生55)
- 小島商店 (太美町1184-4)
- 山田産商 (錦町1091)
- ラルスストア当別店 (樺戸町106)
- 保健福祉センター「ゆとろ」 (西町32)
- 西当別コミュニティセンター (太美町)

ふれあいバス車内でも回収しています! 無料回収券を車内に設置して回収してください。回収券は回収ボックスに投入して回収してください。

**回収方法** ラードなどの動物性油はご遠慮ください

使い終わったてんぷら油を、ペットボトルや回収ボトルに入れてお持ちください。

※回収する時は、各回収場内に設置しています。口が広く、二重のフタで漏れ防止です。

お問い合わせ (有)下段モータース TEL:23-2630

図 3-7-1 回収広報チラシ

### 町外一般家庭回収拠点

町外の一般家庭から排出される廃食用油の回収は、江別市環境課の協力を得て、江別市内のアークスグループ5店舗で行っている。

また、当別町が行っている札幌市北区との連携事業の一環として、札幌市が回収した使用済みてんぷら油の一部を、札幌市北区を走るふれあいバスの燃料として再利用できるよう、提供を受けている。

### (2) 回収量、使用量の推移

平成20年度より回収促進事業を進めてからは、回収量は順調に伸びており、前年比15%増の33,758リットルとなった。また、バイオディーゼル燃料の使用量も増加しており、前年比5%増の28,572リットルを使用し、総燃料費の約60%を賄うことができた。

今後も廃食用油の回収量が増えることが予想されることから、低温時に流動性が低下する性質をもち、冬季間の使用が難しいとされているバイオディーゼル燃料を、エンジン冷却液や走行中に蓄電した電気を利用して、燃料ホースやエンジン周囲を保温する改良を施し、通年で使用できるようにした。

	町内家庭	町内業者	町外家庭	町外業者	合計
平成19年度	439ℓ	16,634ℓ		4,245ℓ	21,318ℓ
平成20年度	1,338ℓ	13,417ℓ		7,641ℓ	22,396ℓ
平成21年度	3,832ℓ	14,317ℓ	1,803ℓ	9,008ℓ	28,960ℓ
平成22年度	4,506ℓ	16,309ℓ	3,691ℓ	9,252ℓ	33,758ℓ

表3-7-2 廃食用油回収量推移

	バス燃料	内BDF	BDF使用割合	経費節減額
平成19年度	44,810ℓ	19,907ℓ	44.43%	
平成20年度	42,689ℓ	21,148ℓ	49.54%	1,361,721円
平成21年度	47,991ℓ	27,326ℓ	56.94%	842,991円
平成22年度	46,961ℓ	28,572ℓ	60.84%	1,296,496円

表3-7-3 バイオディーゼル燃料使用量推移

### (3) オフセット・クレジット(J-VER)制度の活用

平成21年1月に、オフセット・クレジット(J-VER)創出モデル事業に認定され、バイオディーゼル燃料利用による二酸化炭素排出量の取引を実現するため、事務を執り進めていた。

平成22年3月29日に申請が受理されたことから、J-VER制度を共同で申請している(株)エコノスに取引企業の選定を依頼し、全日本空輸(株)(ANA)、当別町、協議会との3者で「環境まちづくりパートナーズ協定」を締結するに至った。

協定の主な内容は、「当協議会が発行するJ-VERをANAが全量購入する。」「ふれあいバスにANAのロゴを使用できる。」「協定期間中に行われる環境教育に講師を派遣する。」となっている。

## 第4部 調査・研究

### 1. OD調査の実施

今後の当別ふれあいバスの路線や時刻を検討するために、OD調査を実施した。

現在、バスの利用者数の把握は運行事業者の下段モーターズが独自に行っているが、一般的な性別・年齢層のデータのほか、当別ふれあいバスの多様な支払方法や、バス間での乗り継ぎの有無など、通常の運行では把握できないデータを収集することを目的とした。

なお、一昨年度及び昨年度の調査結果との比較を実施するため実施時期を昨年度の調査時期と合わせて実施した。

#### 実施概要

実施時期	平成22年12月6日(月)～平成22年12月12日(日)
対象路線	当別ふれあいバス全路線 (市街地循環線、金沢線、みどり野・青山線、西当別・あいの里線)
調査方法	調査員がバスに乗車して乗車カウント及び聞き取り調査
調査内容	バス停留所間のOD 利用者の性別(目視による選別) 利用者の年齢層(目視による選別) 支払方法(現金・応援券・回数券・無料チケット) 乗り継ぎの有無と乗り継いだ場合の利用路線
調査結果	総括表 乗り継ぎ区間一覧表 流動図 これらのデータは別冊資料にて報告とする

バスOD調査の結果は参考資料「当別ふれあいバスOD調査の結果」を参照。

## 2. 本格運行体制調査検討の実施

当別ふれあいバスが補助金に頼らない本格運行を行っていくうえでの、収支バランスのとれた運行の検討、参加事業者負担金の取り扱いや運行体制の検討を当別町コミバス運行事業者連絡会議の中で行った。

### 第1回当別町コミバス運行事業者連絡会議

事業者の間で共通の認識を持ち検討する必要があるためこれまでの経過、各年度の運行経費、利用者数のデータを整理したものを確認するとともに、路線の減便、料金の値上げなど考えられる本格運行検討案に対するメリット・デメリットを整理した。

### 事業者ヒアリングの実施

第1回連絡会議で示した本格運行検討案に対し、各事業者の意識・意見を把握するため日時を調整し、ヒアリングを実施した。

ヒアリング実施者 北海道開発技術センター

実施日時	対応者
平成22年7月 2日	北海道医療大学
平成22年7月 6日	スウェーデンハウス(株)
平成22年7月14日	当別町

### 第2回当別町コミバス運行事業者連絡会議

ヒアリング調査を受け、運行便数の削減はやむを得ないとの結果となった。運行体制を確立するため、具体的にどの便を削減するか検討するために、各路線、運行便ごとの利用者データを整理し、運行コストの削減を検討するために必要となる現状の路線・運行便における利用者データを整理するとともに、運行便数の見直し案を提示し各事業者で検討をいただくこととした。

### 第3回当別町コミバス運行事業者連絡会議

第2回連絡会議後にいただいた意見を示し、その意見を反映させたダイヤ、運行体制、事業者負担金など本格運行時の体制案を協議し、協議会に提案するものを確定させた。

## 第5部 まとめ

### 1. 当別町コミュニティバス実証運行事業のまとめ

#### (1) 路線に関して

##### 市街地循環線

昨年度バスの台数を増加し、便数を15便まで増やして運行したが、利用者の劇的な増加はなかった。今年度は中でも利用の少ない昇順8便と降順7便を減らして運行し、12月1日からは、2台運行から1台運行に変更した。とうべつ整形外科の脱会の影響が大きく月別に見ても全ての月で昨年の利用者を下回った。また、冬季は雪で道路幅が狭くなることにより、ダイヤも乱れ、特に1月は近年稀に見ぬ大雪により大きくダイヤが乱れた影響で過去最低の利用者となった。

今後は利用者が激減したとうべつ整形の停留所の見直しも視野に入れながら、全体的なダイヤの調整が課題となる。

##### 金沢線

利用者は過去最大になっている。医療大の学生の利用者増が顕著であり、経済的な側面とシステムに学生が慣れたことから、無料で利用できるバスへの転換が進んだと考えられる。特に大学の講義第1講目に合わせている北海道医療大学行き1便の利用が一番多い。昨年度までは4・5月は始発の当別駅南口でバスに乗り切れず増便対応していたが、今年度は同時刻に2台走行できるようダイヤを変更したことにより、増便対応をすることなく運行できることになった。

また、夏季から冬季にかけて、午前中の便で利用者が増加していることから、自転車からの転換層が多いことがわかる。

今後は医療大学のオリエンテーションの中で、車から公共交通への転換を促す内容を追加すると利用者の増加が見込まれると考える。

##### 西当別・あいの里線

これまで減少が止まらなかった平日の利用者が、今年度は逆に増加した。これは南口行き2便が金沢線北海道医療大学行き1便に接続していることによる、利用者の急増が大きな原因と考えられる。土日祝日の利用者は横ばいもしくは、一部の路線では増加していることから、減少に歯止めがかかっている。ただし、冬季間の利用者は増加しており、太美駅行きの第1・2便が増加していることから、通勤・通学者が徒歩または自転車から乗り換えていると考えられる。

平成22年4月のダイヤ改正で、あいの里教育大駅を経由する路線に変更したことで、利便性がよくなり医療大キャンパスでの乗降者数から教育大駅での乗降者数に移行したことがわかる。

### みどり野・青山線

西当別・あいの里線と同様に、過去4年間と比べて平日の利用者が減少している。土日祝日の利用者は大きく変わらないことから、通勤・通学での利用者が減少していると考えられる。また、夏季と冬季の利用者数に変わりがないことから、自転車からの転換層の利用も少ないと判断できる。

利用者増加を図るため今年度4月の改正で、みどり野・青山線と西当別・あいの里線の接続時間を改善し、1日乗車券を作成して乗り継ぎの金銭負担を軽減する方法をとったが、通勤・通学者の減少と、とうべつ整形外科の無料送迎再開による影響で、利用者の減少は止められなかった。

### SuiSui ふれバ

DRT型の検証と、交通空白時間帯となる深夜のバス利用者を発掘するため実証運行を行ったが、2年半の実績を見ても平均利用者数が4人弱と、黒字のラインには届かなかった。

昨年度に実施したキャンペーンにより潜在需要があることは分かったが、利用者へ転換することができず、本格運行への移行を考え、赤字が明らかである路線を残すことはできないため2年8ヵ月で廃止することとなった。

## (2) 収入に関して

平成19年度から平成20年度にかけて応援券を値上げしたことと、広告収入を徴収したことから、事業収入が1,069万円となり、運行経費に占める事業収入の割合が21.39%と向上した。平成20年度から平成21年度にかけては、応援券の値上げなど、収入増加の要因が無かったことから、収入は40万円弱の減少となった。平成21年度から平成22年度にかけては、応援券と現金収入が減少する一方で、回数券の売り上げ増加と今年度から販売を開始した一日乗車券の売り上げで収入はほぼ横ばいとなった。回数券の認知度が向上したことにより、応援券購入者が回数券購入へと移行したものとする。

夏休み冬休み子ども定期券は、昨年度の結果を踏まえ、夏季・冬季同一条件では新聞折り込みを実施したが、夏季と冬季の差は変わらなかったため、要因は子どもの行動範囲(プールでの利用など)が季節によって変わるものとする。



## 2. 活性化事業に関するまとめ

### (1) デマンド路線実証運行事業

昨年度実施した調査を基に、予約型の路線バスの実証運行を行い、運行収入のみで運行できる自立した路線となるか検証する計画であったが、補助金のカットにより取りやめざるを得なかったが、今後検討を重ねて実証運行を実施したい。

### (2) 設備の充実

待合環境の改善を図るため、上屋のある待合所の整備等を計画していたが、補助金のカットにより整備するに至らなかったが、トーホテック株式会社から寄贈いただき、西当別中学校に設置することができた。

### (3) モビリティ・マネジメントの実施

利用者数が頭打ちになっている現状で、今後安定した収入を確保する為には新たな利用者の発掘のほか、長期に渡る利用促進策の実施が課題である。小中学生に対する将来を見越したモビリティ・マネジメントは、今後町内のバス交通を活性化させるために、きわめて重要な施策と言える。

小中学生を対象とした環境と公共交通に関する授業は、継続的に行えるものとなるよう、昨年同様学校と協議を重ね「交通日記」による「事実情報提供法」の実践、「行動プラン法」の実践などの授業に取り組んだ。学校も積極的に取り組んでもらえるようになり、これらの授業スタイルが確立されつつある。

大学生向けモビリティ・マネジメントとして、昨年度作成したリーフレットを新入学生のオリエンテーション時に配布し説明を行った。オリエンテーション効果もあり、4月の利用人数は大幅に増加した。今後も継続実施する必要があると考えられる。

住民向けモビリティ・マネジメントとして、継続的にニューズレターを発行し、協議会の開催状況やバスまつり、バスツアーなど利用促進事業の周知を行い、ふれあいバスへの理解と認知度の向上を図った。

今後もモビリティ・マネジメントを継続実施し、利用者の増加につなげたい。

### (4) バスマつりの開催

ふれあいバスを中心とした公共交通利用を促すため、昨年度に引き続き開催した。今年度は当別町 140 年を記念する年であり、記念式典の前哨戦ともいえる役割を担っていた。

2 回目の開催ということ、JR 北海道の協力により広範囲の駅へのポスター掲示、JR 車両の中吊り広告の実施により町外からの来場者も多くいたと考えられる。

会場アンケートの結果からは、ふれあいバスに興味があり来場した方が一番多いことが分かり、今後もバスマつりに参加したいと答えた方が約 7 割であった。自由記述の中にもバスマつりの継続実施を希望する声が多い。

今年度は事後アンケートを行わなかったことから、意識の変化を確認することはできなかったが、イベント時に配布した無料乗車券の利用状況から、イベント後にバスを利用している方がいることがわかり、利用促進につながっていることは確実である。

### 3. 今後の課題

平成18年からの実証運行の実績をもって、本格運行向けダイヤを平成22年12月1日からスタートさせた。自主自立し安定した運行を継続するためにも、利用者を増やす努力を今後も行っていかななくてはならない。市街地循環線については、とうべつ整形外科が無料送迎を開始した影響もあり、利用者が減少している。市街地エリアの住民が利用しやすい路線に変更するとともに、JRの時間にあわせてダイヤを組むことも検討の必要がある。

西当別・あいの里線は、あいの里教育大駅を経由する路線としたことで、路線の利便性を高めることができています。直接的に利用者を増やすことには至らなかったが、あいの里教育大駅での利用者が多くいたことは、利便性の向上を示している。

金沢線は、利用者が年々増加しており、昨年度・今年度については飛躍的に利用者が伸びていて、全体の利用者数に大きく影響を与えている。しかしながら、利用者のほとんどが通学者であり、無料利用者であるため収入の増加には反映されていない。

みどり野・青山線は、通勤・通学者の利用が減少してきている。いわゆる自然減とみられるが、地理的条件から自動車での移動も多くあると考えられ、数年後の利用者は多くなるものと考えられ、どのようにこの路線を維持していくかが課題である。

利用促進事業は、本格運行が始まると運行事業費で予算はぎりぎりとなるため、経費のかかる「バスまつり」、「バスツアー」などの開催は難しくなる。しかし、小中学校向けのモビリティ・マネジメントは、学校の積極的協力をもらえるようになり、授業で使用するコミュニケーションツールも確立され、経費もほぼ掛からないことから今後も継続して実施していきたい。利用促進事業がなくなることで、新たな利用者の発掘が難しくなることから、広告収入など財源の確保に積極的に取り組み、利用者の増加を図る事業を展開していきたい。

今年度で地域公共交通活性化・再生総合事業が終了し、補助金がなくなり、自主自立した運行を行うべく、平成22年12月1日から車両台数、運行便数を削減して収支バランスが取れるようダイヤを変更して運行を開始している。しかしながら、今まで取り組んできた利用促進事業を実施していく財源はなく、このままでは利用者の減少は妨げられない。ふれあいバスの利用者の増加を図るためにも、広告収入など財源確保に取り組むほか、新たな補助制度等を活用できるように、努力していきたい。